

FANTIC製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

お買い上げいただいた車両の運転前に、このマニュアルをよくお読みください。本書には、車両メンテナンスや使用に関する情報、アドバイス、警告が記載されています。また、使用上のガイドがシンプルかつ明瞭に記載されています。このマニュアルを活用していただくことにより、お客様は新しい愛車に自信を持ち、末永く快適にご使用いただけるものと確信しています。

最初の数時間走行後、必ず全てのパーツ、特に以下のパーツの締付けを点検してください

フロントブレーキ キャリパー／リア ブレーキ キャリパー
フロントアクスルシャフト／リアアクスルシャフト
リアスプロケット
エンジンマウントボルト
サスペンション取付けボルト／ナット
ホイール スポーク
スイングアームシャフト

この車両には、触媒排気装置 (ユーロ4以上の認証を受けたもの)が装備されており、非常に高温になります。身体や衣服、燃えやすいものは絶対に近づけないでください！

ご不明な点は、FANTIC MOTOR 正規販売店にお尋ねください。

このマニュアルに記載されているテクニカルインフォメーションや仕様諸元は、作成された時点でのものが掲載されています。マニュアルの内容は、FANTIC MOTOR により予告なく内容を変更されることがありますので、あらかじめご了承ください。

この発行書は作成者の許可なく要約されたり翻訳されることを固く禁じています。そのような場合に生じる間違いや誤植には、FANTIC MOTOR は一切の責任を負いません。無断転用禁止は禁止されています。

目次

はじめに	3	発進	35
製造者データと年版	3	ギアチェンジ	36
概要	4	エンジン停止	37
車両ID	5	メンテナンス	38
車両の改造について	6	はじめに	38
シンボルマーク	6	燃料	39
基本的な安全上のルール	7	定期メンテナンス表	40
運転するにあたり	7	エンジンオイル	43
服装	8	タイヤ空気圧	47
アクセサリー	8	クラッチ	50
積載	9	燃料の使用について	51
サイレンサー	9	ブレーキ	55
車両のケア	10	サスペンション	61
燃料	10	チェーン	63
高温のパーツ	11	エアフィルター	66
車両取り扱いの基本事項	12	クーラント	67
メインコントロール（エンデューロ）	12	スロットルコントロール	70
メインコントロール（モタード）	14	スパークプラグ	72
ダッシュボード：基本機能	16	バッテリー	73
ステアリングロック	28	ヘッドライト及びポジション灯	74
予備点検項目	30	リアビューミラー	74
慣らし運転のルール	32	洗車と保管	77
基本操作	33	愛車の保管	78
始動	33		80
		仕様	81
		おわりに	84
		潤滑表	85

- ◆このマニュアルは、車両の構成要素として不可欠なもので、車両を売却する際には必ず車両と共に引き渡す必要があります。
- ◆Fantic Motor社は、記載されているモデル、仕様、および設計データを予告なしに変更することがあります。
- ◆本書および本書の一部はFantic Motor社の承認なしに省略および翻訳することはできません。
- ◆弊社の許可なしにこのマニュアルの内容を複製することを禁じます。Fantic Motor社は、本書の印刷ミスや落丁について一切の責任を負いません。

MANUFACTURER'S DATA AND EDITION

FANTIC MOTOR

Via Scattolin, 4

31055 - Quinto di Treviso (TV) Italy

Tel. +39 0422 634192

Fax +39 0422 1830124

E-mail: info@fanticmotor.it

www.fanticmotor.it

Edition: 00/2021.

はじめに

概要

このマニュアルには、車両を通常の状態で使用するときの、全ての仕様と説明、助言が記載されています。

車両には保証が適用されており、正規販売店では常に純正部品を用意して的確なアドバイスとサービスを提供しておりますので、メンテナンスや修理の際はいつでもお声がけください。

車両の改造について

車両に元から付いている機能や性能を改造したり変更しないでください。それら車両の不正な改造や変更は、走行に危険を及ぼす違反車両とみなされ法律で禁止されています。車両の改造や変更を行うと、保証が取り消されるだけでなく、罰金の対象となる場合があります。

車両の装備に関しては、お住いの国や地域の法規制に従ってください。

本書で使用されているシンボルマーク

本書では警告事項を示す際に以下のシンボルマークが使用されています。

 車両およびライダーにとって重要な安全上の規制。

 車両の使用や特性に関する情報。

運転するにあたり

車両を使用する前にこのマニュアルをよくお読みください。

この車両を運転するには、必要とされるすべての法的基準を満たしている必要があります。

(運転免許証、最低年齢条件、保険、税金、登録、ナンバープレート、その他)

投薬、飲酒、麻薬、あるいは過労や睡眠障害は、事故のリスクを著しく増大させます。

また経験の浅いライダーの方は、比較的交通量の少ない道路を走行することをお勧めします。

決して、車両を運転経験のない人や運転に必要な資格を持たない人に貸してはなりません。

高速道路を走行する際は、細心の注意を払って走行してください。

サーキットや許可されたレース場以外の公道で、レースまがいの走行をすることは禁止されています。

常に模範運転を心がけましょう。あなたや他の人にとって危険となるような操作は極力避けましょう。

(例：旋回、スリップ・ストリーム走行、スピード違反、その他)

視覚的、またそれ以外にも常に先の道路状況を読み取れるようにしましょう。

いつも両手はハンドルバーの正しい位置に、両脚はフットレストに置かれているようにします。

どのような場合でも、走行中は立ち上がりたり足を延ばしたりしてはいけません。

走行中は運転することに最大限の注意を払い、他の人や物、行動に惑わされないようにしてください。

(例：喫煙、飲食、何かを読む、その他)

車両は常に最良のコンディションに保っておきましょう。

燃料やブレーキ液、クーラントはいつも良好な量が入っているようにします。

潤滑剤や燃料は、指定されているものだけを使用するようにしましょう。

転倒があった後は、必ず全ての制御機構、レバー、パイプ、ケーブル、ブレーキシステム、ホイール、タイヤなどの損傷を確認します。

もし損傷があれば、車両には乗らず速やかに FANTIC MOTOR 正規販売店に移送して修理を受けてください。

⚠ 車両のパーツの位置や向き、ナンバープレートの色、方向指示系統や灯火系統、ホーンなどを違法に変えないでください。また、車両の性能を上げるためにオリジナルの構成を変えるようなこともしないでください。

このような改造をすると保証の適用がされなくなり、車両の安全性のパフォーマンスを著しく低下させるばかりか、違法行為にあたる場合はペナルティを課せられる場合もあります。

お住いの国や地域の法令を遵守し、常に必要条件を満たした車両管理をすることはライダーの義務です。

基本的な安全上のルール

服装

車両を運転する前に、必ずヘルメットを被り、顎ひもをしっかりと締めましょう。

ヘルメットは必ず：

- 認証済みのもの
- 損傷のないもの
- サイズの合ったもの
- バイザーに損傷がなく視界のはっきりしたもの

サイズの合った、身体を保護してくれる衣服で、余計なアクセサリ（例：ネクタイ、ベルト、コード、スカーフ、その他）のないもの。長さのあるものは、車両に引っ掛かるリスクもあるので危険です。明るい色や反射材（素材）の付いている衣服は、より視認性を高めるので日暮れ後などは特に好ましいでしょう。

衣服に尖っているものなどが付随していると、転倒時に非常に危険です。
（身体に刺さる危険性があります）

例えば：

- 鍵類
- ペンなどの尖っているもの
- ガラス素材が含まれているものなど。

これらの注意点は、同乗者にも当てはまります。

アクセサリ

FANTIC MOTOR のオリジナルアクセサリは、正規販売店にてご購入いただけます。

オリジナル品以外をご使用される場合は、お客様ご自身の責任でお取り扱いいただきますようお願い申し上げます。

アクセサリをご使用の際は、以下のことにお気をつけください：

- サスペンションの限界値
- 音響、視覚機器を覆うこと
- ハンドルの仕様域と操作（ブレーキ、スロットル、その他）
- ハンドルのアングルを低減させること
- カーブなどで視界を妨げる

大きなフェアリングやウィンドスクリーンは車両の安定性を欠く可能性があります。

電装系統には、**FANTIC MOTOR** 専用のアクセサリ以外は使用しないでください。電流回路を故障させる可能性があり、音響・視覚装備の正常な働きを阻害して危険を招く恐れがあります。

積載

車両に荷物を積載すると、多少なりともハンドルの操作性に影響がでます。荷物等を積載するときは、できるだけ車両の中心部分に重心がくるように調整し、荷重の偏りが出ないように注意してください。積載荷物はしかるべき方法でしっかりと固定してください。決してハンドルバーやフロントフォーク、フロントフェンダー等に干渉しないように注意してください。これらの周辺に積載負荷がかかると、コーナーリングの際、安定性を欠き、走行時の車両安定性が著しく低下する危険性があります。荷物を積載して走行する際は、過積載にならないように注意し、音響装置（ホーン等）や視覚標識（ウィンカー、ライト等）を遮ることのないように十分留意して行ってください。

サイレンサー

このパーツは、排気ガスの一酸化炭素を酸化して二酸化炭素に変換し、不燃の炭化水素を水蒸気に変換し、窒素酸化物を酸素と窒素に変換して窒素酸化物を削減する機能を担っています。

 車両の使用時、エキゾーストシステムの触媒エレメントに対応する部分は鮮やかな赤色を帯びる場合があります。この色の変化は正常であり、触媒の正しい動作を示します。

 乾燥した茂木がある場所の近くでは、車両を停止、駐車しないで下さい。
子供および/または人々が近づく可能性のある場所は避けてください。

 サイレンサーは高温になるため、接触を避け、完全に温度が下がるまで最大の注意を払って下さい。

 エキゾーストシステムを改造、変更、改ざんしないでください。

 有機ガソリンは触媒にダメージを与えるため、使用しないでください。

エキゾーストシステムに穴や錆または損耗の兆候がないか確認してください。エキゾーストシステムが常に正しく作動することを確認してください。
ノイズが大きかったり異音が発生した場合は、できるだけ早く Fantic Motor 正規販売店にご連絡ください。

 メンテナンス、修理、交換作業の際は、Fantic Motor 正規販売店にご連絡ください。

基本的な安全上のルール

車両のケア

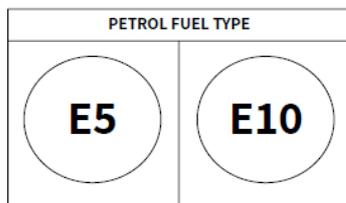
Fantic Motor 社の車両は、適切な車両ケア用品の使用を推奨します。アルコール成分、塗料などの希釈剤、ガソリンなどを含む製品を使用すると、車両の部品が破損したりダメージを受けることがあります。

定期的なケアを行うことにより、車両の美観および機能を長期間保つことができます。

一酸化炭素

- ⚠ 排気ガスには一酸化炭素が含まれています。これは人体に有毒であり、死亡する原因となる可能性があります。特定の作業をする場合は、必ず屋外か、十分な換気ができる部屋で行ってください。密閉した空間では作業しないでください。密閉された空間で作業する場合は、排気ガスを外部に排出するシステムがある場所で行ってください。

燃料



- ⚠ 使用されているガソリンは非常に可燃性が高く、状況によっては爆発・炎上します。給油やメンテナンス作業は、必ず換気の行き届いた場所でエンジンを切った状態で行ってください。給油時や蒸発ガスが溜まっていると考えられる付近では喫煙しないでください。裸火、火花その他の火気や爆発の原因になるような物との接触を避けてください。
- ⚠ 周囲にまき散らしたり、子供を近づけないでください。

高温になるパーツについて

エンジンおよび特定のパーツは非常に高温となり、エンジンを切った後もしばらく高温のままです。エンジンやエキゾーストシステム付近の作業を行う場合には、保護手袋を着用するか、温度が下がるのを待ってください。

最初、数時間走行したのち、全体のパーツの締結、特に以下のパーツについて確認してください：

- A. フロント / リア ブレーキキャリパー
- B. ホイールの車軸
- C. リア スプロケット
- D. エンジン ボルト
- E. リア サスペンション 据え付けナット
- F. ホイール スポーク
- G. リア フレーム

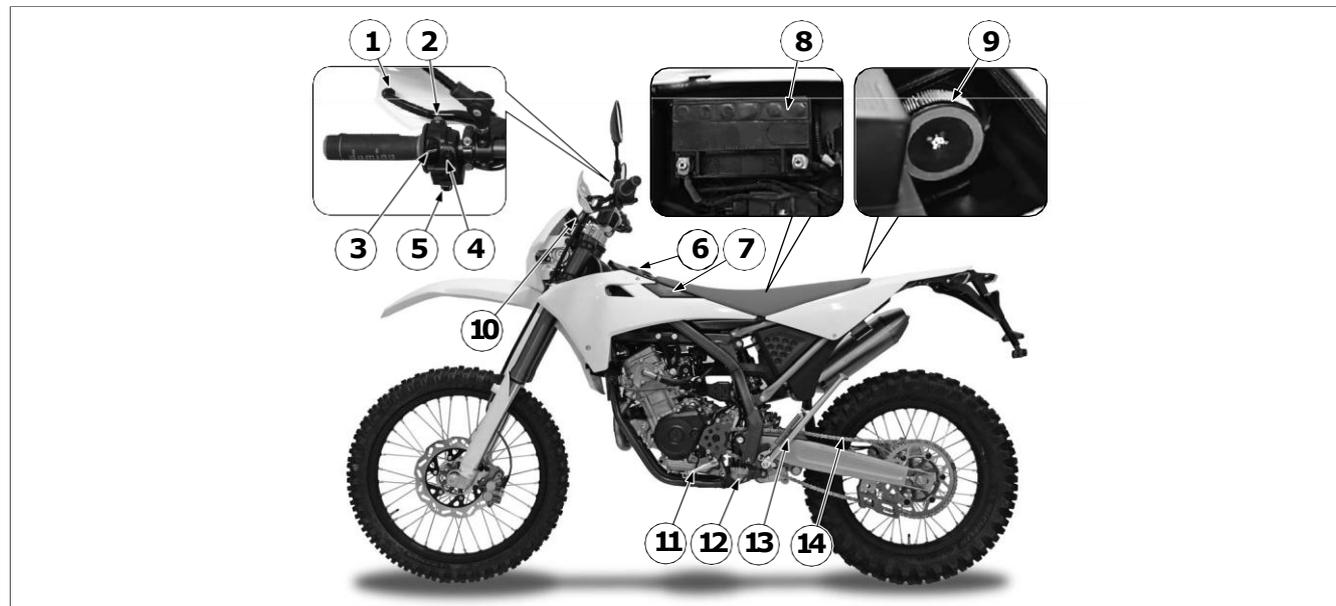
車両には触媒排気装置（ユーロ5 基準認定）が備わっており、非常に高温になります。

絶対に、身体や衣服、燃えやすいものは近づけないでください！

ご質問等ございましたら、いつでも FANTIC MOTOR 正規販売店にお尋ねください。

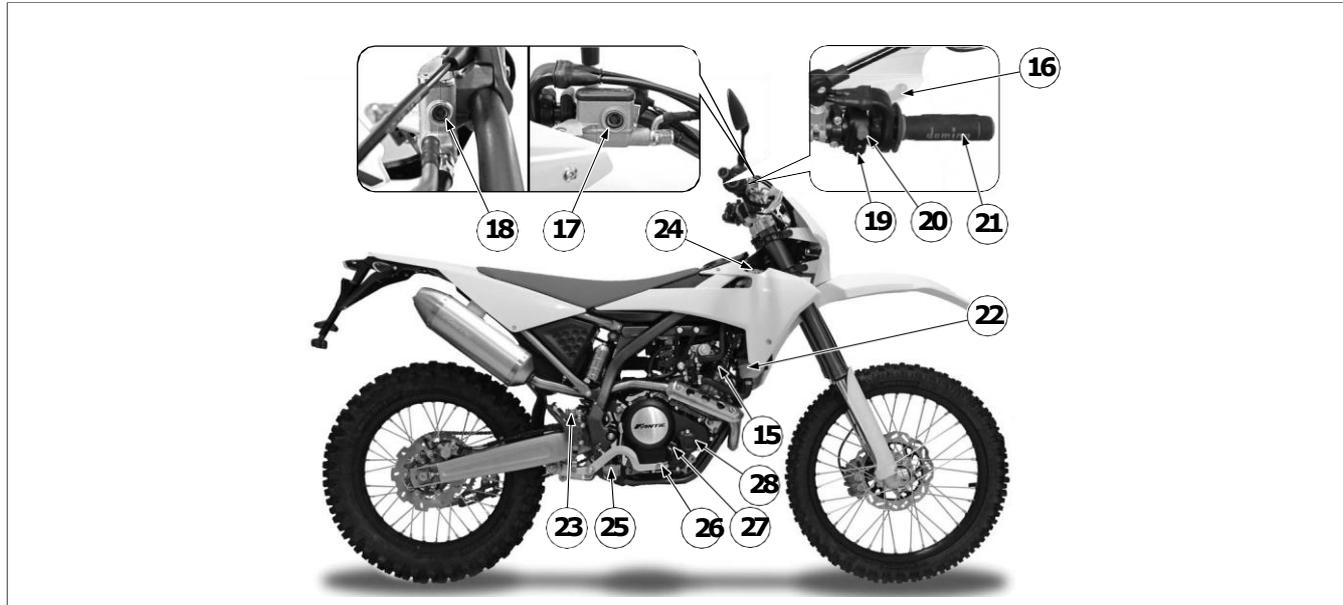
車両取り扱いの基本事項

メインコントロール(エンデューロ)



1. クラッチレバー
2. パッシングボタン
3. ロー/ハイビーム切り替えスイッチ
4. ホーンボタン
5. ウィンカースイッチ
6. 燃料タンクキャップ
7. 燃料タンク
8. バッテリー
9. エアフィルター

10. ハンドルロック
11. ギアシフトペダル
12. 左フットレスト
13. サイドスタンド
14. チェーン

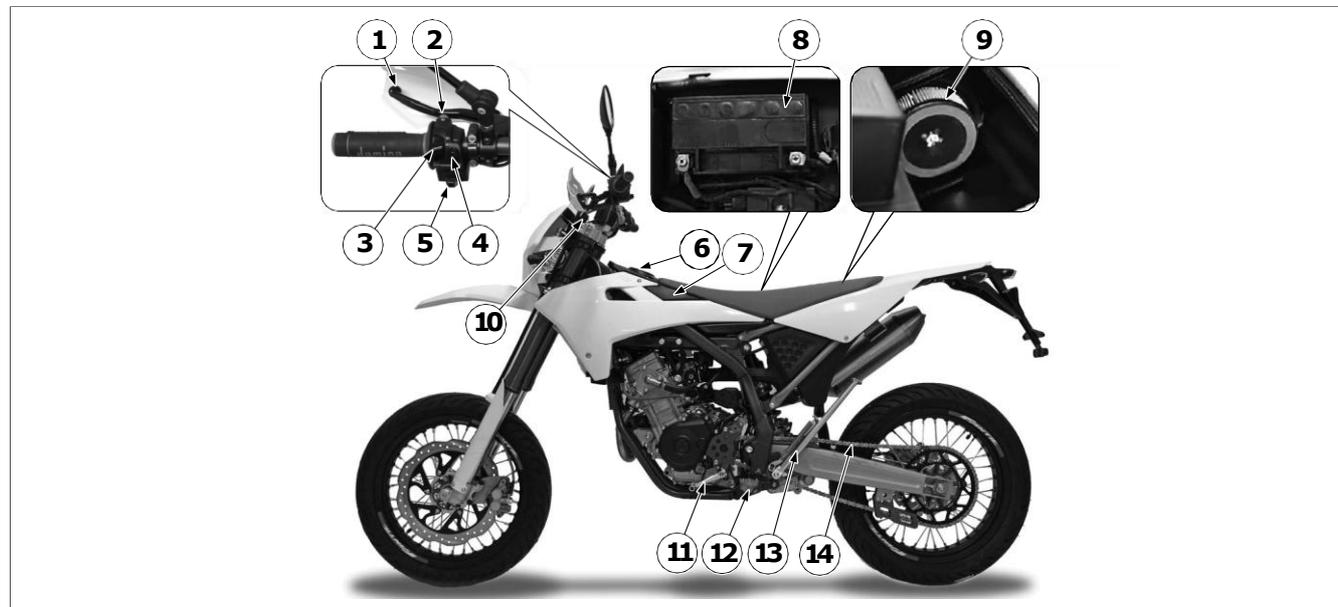


- 15. スパークプラグ
- 16. フロントブレーキレバー
- 17. フロントブレーキ液タンク
 (“パフォーマンス”バージョン) →日本未導入
- 18. フロントブレーキ液タンク
- 19. スターター (セル)
- 20. エンジン停止ボタン
- 21. スロットル

- 22. ラジエーター
- 23. リアブレーキ液タンク
- 24. ラジエーターキャップ
- 25. 右フットレスト
- 26. リアブレーキペダル
- 27. ギアオイルレベルプラグ
- 28. オイルフィルターキャップ

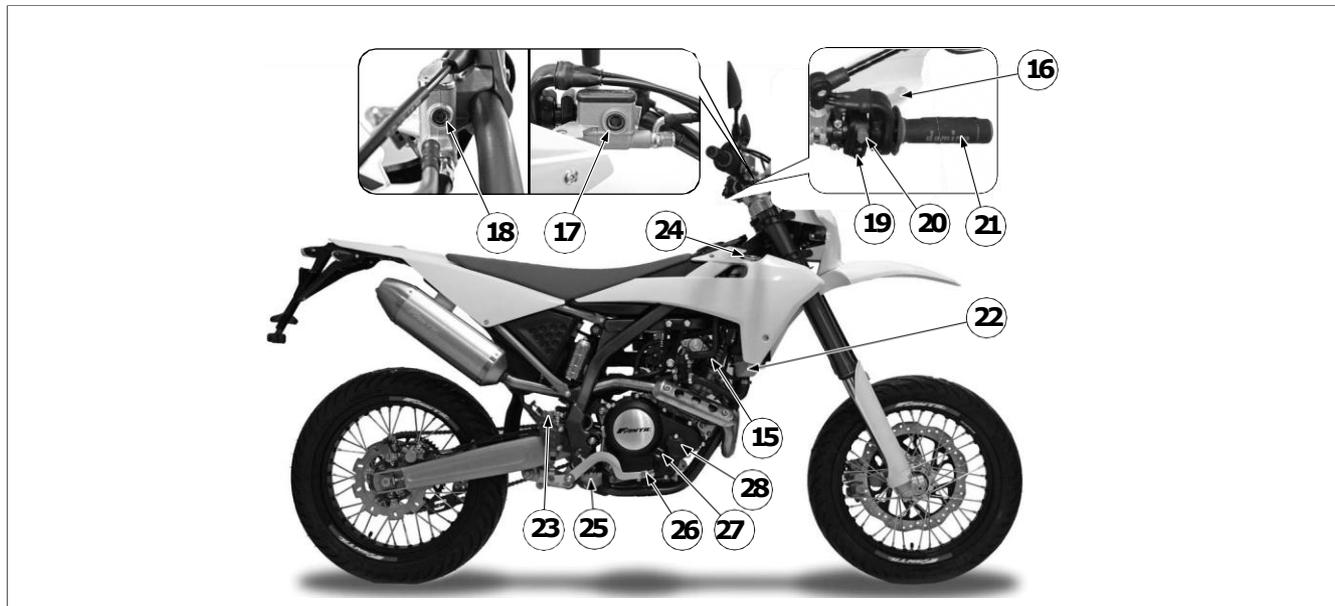
車両取り扱いの基本事項

メインコントロール(モタード)



1. クラッチレバー
2. パッシングボタン
3. ロー/ハイビーム切り替えスイッチ
4. ホーンボタン
5. ウィンカースイッチ
6. 燃料フィルターキャップ
7. 燃料タンク
8. バッテリー
9. エアフィルター

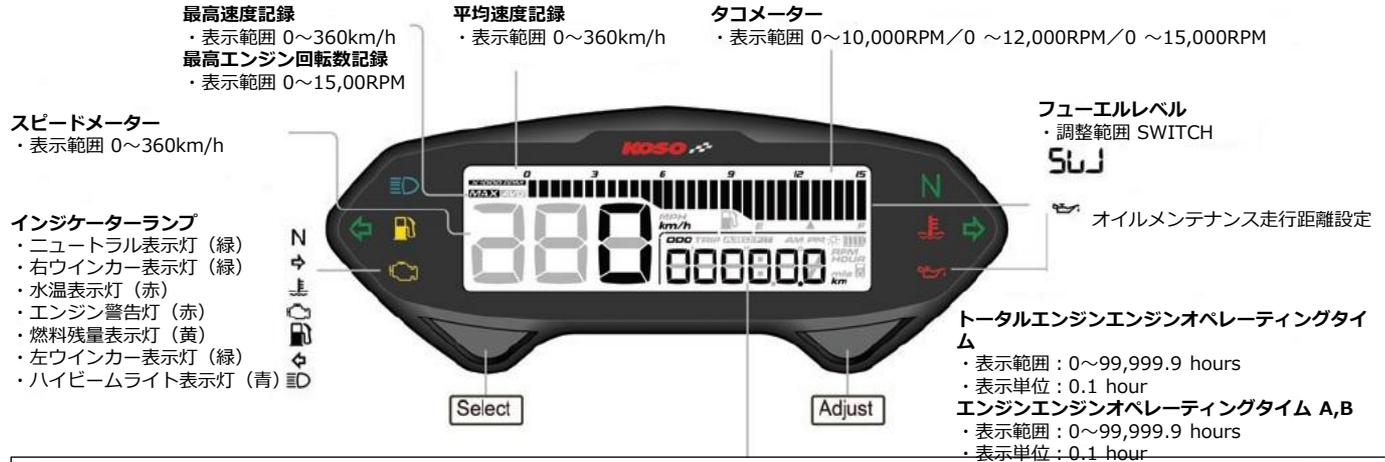
10. ハンドルロック
11. ギアシフトペダル
12. 左フットレスト
13. サイドスタンド
14. チェーン



- 15. スパークプラグ
- 16. フロントブレーキレバー
- 17. フロントブレーキ液タンク
 (“パフォーマンス”バージョン) →日本未導入
- 18. フロントブレーキ液タンク
- 19. スターターボタン (セル)
- 20. エンジンストップスイッチ
- 21. スロットル

- 22. ラジエーター
- 23. リアブレーキ液タンク
- 24. ラジエーターキャップ
- 25. 右フットレスト
- 26. リアブレーキペダル
- 27. ギアオイルレベルプラグ
- 28. オイルフィルターキャップ

ダッシュボードの基本機能



最高速度記録

- ・表示範囲 0~360km/h
- 最高エンジン回転数記録
- ・表示範囲 0~15,00RPM

平均速度記録

- ・表示範囲 0~360km/h

タコメーター

- ・表示範囲 0~10,000RPM/0 ~12,000RPM/0 ~15,000RPM

スピードメーター

- ・表示範囲 0~360km/h

インジケータランプ

- ・ニュートラル表示灯 (緑)
- ・右ウインカー表示灯 (緑)
- ・水温表示灯 (赤)
- ・エンジン警告灯 (赤)
- ・燃料残量表示灯 (黄)
- ・左ウインカー表示灯 (緑)
- ・ハイビームライト表示灯 (青)

フューエルレベル

- ・調整範囲 SWITCH

SW

オイルメンテナンス走行距離設定

トータルエンジンエンジンオペレーティングタイム

- ・表示範囲: 0~99,999.9 hours
- ・表示単位: 0.1 hour

エンジンエンジンオペレーティングタイム A,B

- ・表示範囲: 0~99,999.9 hours
- ・表示単位: 0.1 hour

オドメーター

- ・表示範囲: 0~99,999.9 km
(超過すると0に戻る)
- ・表示単位: 0.1 km

トリップメーター A・B

- ・表示範囲: 0~99,999.9 hours
- ・表示単位: 0.1 km

タコメーター

- ・表示範囲: 0 ~15,000RPM
- ・表示単位: 10 RPM

電圧計

- ・表示範囲: DC 8.0V~16V
- ・表示単位: 0.1V

エンジンオイルメンテナンス走行距離設定

- ・表示範囲: SI unit
500 (~8,000km 調整可能) ~ -999km 走行距離の増加に応じて自動的に減少
- ・表示範囲: Inch
300 (~5,000mile 調整可能) ~ -999mile 走行距離の増加に応じて自動的に減少
- ・表示単位: 1km (mile)

インターナルオドメーター

- ・表示範囲: 0~99,999.9 km
(超過すると0に戻る)
- ・表示単位: 0.1 km

エクスターナルオドメーター

- ・表示範囲: 0~99,999 km
(超過すると0に戻る)
- ・表示単位: 1 km

車両取り扱いの基本事項

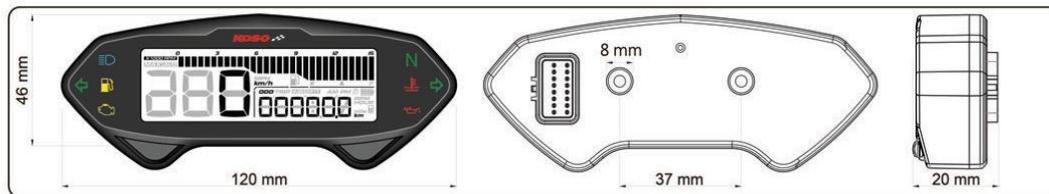
機能、設定手順

・スピードメーター	表示範囲：0~360km/h 設定範囲を超えると点滅します 表示単：1 km
○内部表示	<0.5秒
○オドメーター	表示範囲：0~99,999.9km/h 超過すると0に戻る 表示単位：0.1 km
○トリップメーター A B	表示範囲：0~999.9km/h 超過すると0に戻る 表示単位：0.1 km
●エンジンオイルメンテナンス 走行距離設定	表示範囲：SI unit 500 (~8,000km 調整可能) ~ -999km 走行距離の増加に応じて自動的に減少 表示範囲：Inch 300 (~5,000mile 調整可能) ~ -999mile 走行距離の増加に応じて自動的に減少 表示単位：1km (mile)
○最高速度記録	表示範囲 0~360km/h 表示単位：1km
○平均速度記録	記録範囲 0~360km/h
○タイヤ外径	調整範囲：300~2,500mm 調整単位：1mm
○検出ポイント	設定単位：1~20points 設定単位：1point
●タコメーター	表示範囲：0~15,000RPM 表示単位：10RPM
○内部表示	<0.5秒
○タコメーターステージ	表示範囲：0~10,000RPM 0~12,000RPM 0~15,000RPM 表示単位：0~10,000RPM (333RPM各ステージ) 0~12,000RPM (400RPM各ステージ)
○最高エンジン回転数記録	表示範囲：0~15,00RPM 表示単位：10RPM
○RPM入力信号設定	設定単位：P-0.5/P-1~P-25
○RPM入力パルス	設定単位：Lo-Act/Hi-Act

●トータルアワーメーター	表示範囲：0~99,999.9 hours 表示単位：0.1 hour
○アワーメーター A B	表示範囲：0~9,999.9 hours 表示単位：0.1 hour
●フューエルレベル	調整範囲：SWITCH 5L
●電圧計	表示範囲：DC 8.0V~16.0V 表示単位：0.1V
●インターナルオドメーター	表示範囲：0~99,999.9 km (調整不可) 表示単位：0.1 km
●エクスターナルオドメーター	表示範囲：0~99,999.9 km 表示単位：0.1 km
●バックライトカラー	表示範囲：白
●電圧	DC12V
●温度範囲	-10 ~ +60℃
●メーター基準	JIS D 0203 (S2)
●メーターサイズ	120 x 46 x 20 mm
●メーター重量	約240g
●インジケータランプ	ニュートラル表示灯 (緑) N 右ウインカー表示灯 (緑) 右 水温表示灯 (赤) 上 オイルメンテナンス設定 下 ハイビームライト表示灯 (青) 左 左ウインカー表示灯 (緑) 左 燃料残量表示灯 (黄) 中 エンジン警告灯 (赤) 中

NOTE 予告なく設計、仕様の変更をすることがあります

メーターサイズ



Selectボタンの操作方法



・時計表示画面で**Selectボタン**を1度押すと電圧が表示されます

・**Selectボタン**を3秒長押しすると、エンジン回転数と燃料レベルバーの表示が、切り替わります



・電圧表示画面で**Selectボタン**を1度押すと、燃料計が表示されます



・燃料計表示画面で**Selectボタン**を1度押すと、時計表示画面に戻ります

Adjustボタンの操作方法



・オドメーター表示画面で**Adjustボタン**を押すとトリップメーターA画面が表示されます

・オドメーター表示画面で**Selectボタン**と**Adjustボタン**を3秒長押しするとセッティング画面が表示されます



・トリップメーターA表示画面で**Adjustボタン**を押すとトリップメーターB画面が表示されます

・**Adjustボタン**を3秒長押しすると、トリップメーターAがリセットされます



・トリップメーターB表示画面で**Adjustボタン**を押すとオイルメンテナンス画面が表示されます

・**Adjustボタン**を3秒長押しすると、トリップメーターAがリセットされます



・オイルメンテナンス画面表示画面で**Adjustボタン**を押すとトータルアワーメーターが表示されます

・**Adjustボタン**を3秒長押しすると、オイルメンテナンスの設定がリセットされます



・トータルアワーメーターが表示画面で**Adjustボタン**を押すとアワーメーターA画面が表示されます



・アワーメーターA表示画面で**Adjustボタン**を押すとアワーメーターB画面が表示されます

・**Adjustボタン**を3秒長押しすると、アワーメーターAがリセットされます



・アワーメーターB表示画面で**Adjustボタン**を押すと最高速度履歴が表示されます

・**Adjustボタン**を3秒長押しすると、アワーメーターBがリセットされます



・最高速度履歴表示画面で**Adjustボタン**を1度押すと平均速度が表示されます

・**Adjustボタン**を3秒長押しすると、最高速度履歴がリセットされます



・最高速度履歴表示画面で**Adjustボタン**を1度押すとオドメーターが表示されます

・**Adjustボタン**を3秒長押しすると、平均速度履歴がリセットされます



・オドメーター表示画面

設定画面



セッティングメニューと設定方法

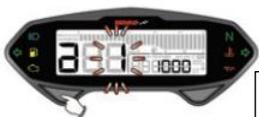


・**Selectボタン**と**Adjustボタン**を**3秒長押し**して設定画面を表示します

・設定画面

1. タイヤ外径と検出ポイント
2. RPM入力信号設定
4. バックライト調整
5. エンジンオイルメンテナンス走行距離設定
6. 速度表示単位設定
7. エクスターナルODO
9. インターナルODO

タイヤ外径と検出ポイント設定



- ・ **Selectボタン**を押してタイヤ外径と検出ポイント設定画面を表示します

⚠️ 注意!

- ・ タイヤ外径とセンサー検出ポイントを確認します（磁気センサーはディスクローターもしくはスプロケットボルトに装備されています）
- ・ メーターに表示される値はこの設定の影響を受けます。設定値が正しいことを確認してください

- ⚠️ 異なるサイズのタイヤを取り付けた場合、設定値をリセットする必要があります。



- ・ **Selectボタン**を押して設定画面を選択します

- ・ 設定例：
現在の表示はタイヤ外径1,000mmに設定されていることを示しています

- ⚠️ 設定を識別する数値は、変更操作中に点滅します

NOTE 調整範囲：300～2,500mm
調整単位：1mm



- ・ メジャーでホイールの円周を測定するための開始点と終了点としてハルブを定義することができます



- ・ 値を変更するには**Adjustボタン**を押します



- ・ **Selectボタン**を押して測定値を入力します

- ・ 設定例：
設定値が1,000mmから、1,300mmに変更されました



- ・ **Adjustボタン**を押して正しい数値を選択します

- ・ 設定例：
現在の表示はセンサー値が1で設定されていることを示しています

- ⚠️ 設定を識別する数は、変更操作中に点滅します

NOTE 調整範囲：1～20



- ・ **Selectボタン**を押すとタイヤ外径設定画面に戻ります

- ・ 設定例：
センサー値が1 Pから6 Pに変更されました



- ・ **Adjustボタン**を押すと次の設定画面に移ります

- ・ 設定例：
センサー値が1 Pから6 Pに変更されました

エンジン回転数入力信号設定



- **Selectボタン**を押してRPM/ベレス設定画面を表示します



- **Adjustボタン**を押して正しい数値を選択します

⚠ 設定を識別する数値は、変更操作中に点滅します

NOTE 調整範囲： P-0.5/P-1~P-25

The setting value	The corresponding strokes and pistons number.	The corresponding RPM signal number per ignition.
0.5	4C-1P	2 RPM signals per 1 ignition.
1	2C-1P 4C-2P	1 RPM signal per 1 ignition.
2	2C-2P 4C-4P	1 RPM signal per 2 ignition.
3	2C-3P 4C-6P	1 RPM signal per 3 ignition.
4	2C-4P 4C-8P	1 RPM signal per 4 ignition.
5	4C-10P	1 RPM signal per 5 ignition.
6	2C-6P 4C-12P	1 RPM signal per 6 ignition.

⚠ **注意!**
単気筒4サイクルエンジンのほとんどはクランクが360度ごとに1度点火します。これは単気筒2サイクルエンジンと同じ設定になります



- RPM/ベレスをP-1~P-13に設定します
- **Selectボタン**を押して波形設定画面を表示します



- **Adjustボタン**を押して正しい値を選択します (Hi-ActもしくはLo-Act)

⚠ 設定を識別する値は、変更操作中に点滅します

NOTE 調整範囲： Hi-Act/Lo-Act

NOTE 回転数 (RPM) が不正確あるいは正しく表示されていない場合、別の設定を選択してください。



- 設定例：
現在の表示はHi-Actで設定されていることを示しています
- **Selectボタン**を押してRPMステージ設定画面を表示します



- **Selectボタン**を押して変更する値を選択します
- 設定例：
現在の表示は15,000RPMで設定されていることを示しています

⚠ 設定を識別する値は、変更操作中に点滅します

NOTE 調整範囲： 10,000/12,000/15,000RPM



- **Adjustボタン**を押して正しい数値を選択します



- **Selectボタン**を押すとRPMステージ設定画面に戻ります



- **Adjustボタン**を押すと次の設定画面に移ります

燃料計設定



注意!

燃料計抵抗値

燃料レベルマニュアル設定

燃料レベル自動検出

燃料残警告設定

燃料に関する全ての機能は無効になっています

燃料レベル設定値 : SWITCH

SWJ

バックライト輝度設定

・ **Selectボタン**を押してバックライト設定画面を表示します

・ **Adjustボタン**を押して選択画面を表示します

NOTE 調整範囲 : 1 (暗い) ~ 5 (明るい)

NOTE 設定範囲:
1 (暗い) ~ 5 (明るい), 5段階調節可能。設定枠:20% レベル毎。
バックライトの明るさは、値を設定するとすぐに変わります。

・ **Selectボタン**を押すとバックライト設定画面に戻ります

・ **Adjustボタン**を押すと次の設定画面に移ります

エンジンオイルメンテナンス設定



- ・ **Selectボタン**を押してオイルメンテナンス設定画面を表示します



- ・ **Adjustボタン**を押して選択画面を表示します

⚠ 設定を識別する値は、変更操作中に点滅します

NOTE 調整範囲：2T / 4T



- ・ **Selectボタン**を押して4Tを選択します



- ・ メンテナンス走行距離を設定します

- ・ **Selectボタン**を押して選択画面を表示します

- 例: モーターオイルマイルレージパラメーターは 1,500.
 - 例. 現在のモーターオイルマイルレージパラメーターは 1,000.
- 設定中の値は点滅

⚠ 設定を識別する値は、変更操作中に点滅します

- 2-ストローク モーターオイルマイルレージは外部警告灯により警告(オイルインジケーター点灯)
- 4-ストロークモーターオイルマイルレージは内部のクロノグラフにより管理



- ・ **Adjustボタン**を押して正しい数値を選択します



- ・ **Selectボタン**を押すとオイルメンテナンス設定画面に戻ります



- ・ **Adjustボタン**を押すと次の設定画面に移ります

速度表示単位設定



- **Selectボタン**を押してスピードメーター設定画面を表示します



- **Selectボタン**を押すとスピードユニット(単位)設定画面に戻ります
調整範囲: km/h / MPH



- **Adjustボタン**を押してkm/hを選択します

NOTE 調整範囲: km/h / MPH



- **Adjustボタン**を押すと次の設定画面に移ります

外部オドメーター



- **Selectボタン**を押して外部オドメーター設定画面を表示します



- **Selectボタン**を押して外部オドメーター設定画面を表示します。
例: オドメーターを0~12,500kmに変更。
12,500 km.



- 例: 総走行距離を12,500kmに設定する
Selectボタンを押して設定数値を選びます

! 設定を識別する数は、変更操作中に点滅します

NOTE 設定範囲/0~99,999km(mile)



- **Adjustボタン**を押すと次の設定画面に移ります



- Adjustボタン**を押して設定数値を選びます

内部オドメーター



例：内蔵オドメーターが50,000km
Selectボタンを3秒間押し続けるとオドメーター画面に戻ります

⚠ 内蔵オドメーターはリセットしたり調整することはできません

NOTE 設定範囲/99999,9km(mile)



・メインスクリーン

トラブルシューティング

下記の場合は、メーターの故障ではありません。修理に出す前に、下記の項目を点検・確認して下さい。

<トラブル>	<チェック項目>	<トラブル>	<チェック項目>
電源がオンになってもメーターが動かない。	<ul style="list-style-type: none"> ワイヤーハーネス、カプラーを点検し、メーターに電源が供給されていることを確認してください。ワイヤーハーネス、フューズに問題がない場合、メーター起動に必要な電力（8V）が不足していないか確認してください。 	タコメーターが表示されない、または誤って表示される。	<ul style="list-style-type: none"> RPMセンサーの配線が正しく接続されているか確認してください。
メーターが間違っただけの情報を表示する。	<ul style="list-style-type: none"> バッテリー電圧を確認し、電圧が8V以上であることを確認してください。 	燃料ゲージが表示されない、または誤って表示される。	<ul style="list-style-type: none"> スパークプラグがRタイプかどうか確認し、もし違っていたらRタイプのもので交換してください。 エンジン回転数入力信号設定を確認してください。
スピードが表示されない、または誤って表示される。	<ul style="list-style-type: none"> スピードセンサーが正しく接続されているか？スピードセンサーの接続は正しいか？センサーケーブルは断線したり緩んでいないか？ タイヤ外径と検出ポイント設定を確認してください。 		<ul style="list-style-type: none"> ワイヤーハーネス、カプラー、タイヤ外径の設定を点検してください。
オドメーターとトリップメーターが累積されない、または誤って累積される。	<ul style="list-style-type: none"> ワイヤーハーネス、カプラーを点検し、メーターに電源が供給されていることを確認してください。赤の+極ワイヤーハーネスが正しく接続されているか確認してください。 		

上記の手順を踏んでも問題が解決しない場合は、FANTIC MOTOR正規販売店へお問合せください。

ダッシュボード設定値

ダッシュボード設定	バージョン	通常値
ホイール周径	モタード	1880
ホイール周径	エンデューロ	2040
感知ポイント	-	P9
RPMパルス	-	HI-ACT (高周波)
燃料リザーブ	-	SWITCH

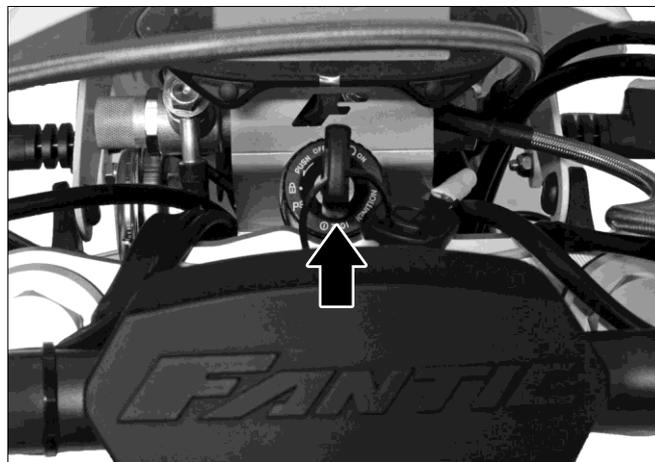
JP

ステアリングロック

ハンドルバーをロック

スタンドを立ててからハンドルバーを完全に右側に切り、

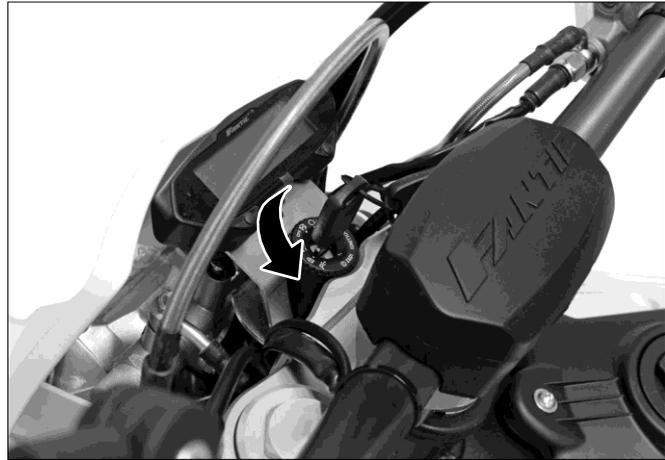
キーをステアリングロックの位置に押しながら回してロックします。



キーを押しこんでください。

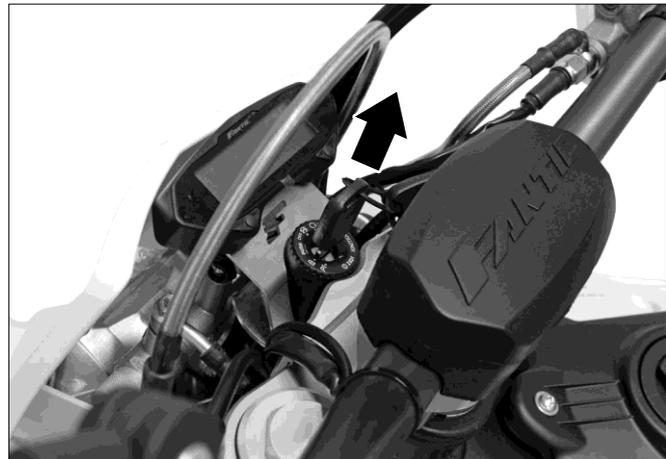


押し込んだキーを反時計回りに回しててください。



JP

キーを引き抜きます。



予備点検項目

項目	点検
フロント/リア・ディスクブレーキ	<ul style="list-style-type: none"> - ブレーキ操作(スムーズか、滑りなどないか)握るとき/離すとき - 遊びは適切か、フロント/リアの動作は滑らかか - タンクのブレーキ液レベル (フロント/リア) - ブレーキサーキット周辺に液漏れはないか(ブレーキ液タンク、ブレーキホースパイプ、ブレーキキャリパー)、フロント/リア - フロント/リアブレーキパッドの摩耗
スロットル	スロットルの回転はスムーズか、動かしにくさなどないか。
ギアオイル	レベル点検(メンテナンス表の関連ページを参照)
ホイールとタイヤ	<ul style="list-style-type: none"> - タイヤ空気圧(メンテナンス表の関連ページを参照) - タイヤの溝の摩耗 - タイヤとホイール全体の様子 - 溝に異物が挟まっていないか(あれば除去) - その他すべての損傷点検
クラッチ	<ul style="list-style-type: none"> - 正しく動作するか(引っ掛かりがないか、引きつりやガタつき滑りはないか)切ったとき/つないだとき - 遊びは適切か、レバーの動作は滑らかか
ハンドル	<ul style="list-style-type: none"> - 万全な状態か、回転は滑らかか - 遊びはないか
サイドスタンド	<ul style="list-style-type: none"> - 万全な状態か、滑らかに動くか - 支柱ピンに遊びはないか - はらった際正しく収納されるか - 遊び等がなくスプリングによってしっかりと収納されているか
エンジン停止(キル)スイッチ	動作は正常か
スターター(セル)ボタン	動作は正常か

項目	点検
ドライブチェーン	<ul style="list-style-type: none"> - たるみ - チェーン、スプロケットとリングギアの摩耗 - 清潔と潤滑
燃料タンク	<ul style="list-style-type: none"> - 燃料レベル - 燃料タンクのフタはきちんと閉まっているか - 燃料供給回路からの漏れ (燃料タンク、燃料パイプ)
コントロールパネル	<ul style="list-style-type: none"> - コントロールパネル設定機能 - 灯火系 (ライト) - 総合的な操作の状態 - 方向指示器系統ランプ - ハイビームインジケータランプ - ニュートラルインジケータランプ
ホーン/ターンシグナル	<ul style="list-style-type: none"> - ホーン - ヘッドライトとテールライト - ブレーキランプ - 方向指示器
バッテリー	バッテリー残量レベル
冷却システム	液レベル

慣らし運転のルール

車両のベストパフォーマンスは、慣らし運転後の初回点検を完了して初めて発揮することができます。

車両を使用する最初の数回は、各部パーツの動きを馴染ませる慣らし運転期間を設けることが不可欠です。車両が持つ本来の性能を発揮するためにも、慣らし運転期間中は一定のルールに従う必要があります。

以下のヒントは、ユーザーが適切な慣らし運転を行う際の指標となります。

負荷

エンジンおよび車両パーツに適切な負荷をかけることが重要です。その一方、負荷をかけ過ぎたり不足したりしないようにしてください。負荷のかけ過ぎ、不足、そのどちらの場合も車両のパフォーマンスに影響を及ぼします。急激な加速はせず、徐々に速度を上げてください。

コース

山道を走行する際は、エンジン、ブレーキ、サスペンションに負荷が掛かり過ぎないように注意してください。エンジン、ブレーキ、サスペンションに負荷がかかる時と負荷が少ないあるいは無負荷の時に周期的に繰り返すような、カーブや勾配の緩やかな道路が適しています。

スピード

フル加速は可能ですが、フルスピードで長距離走行を行わないでください。

ブレーキ

新車購入時の新品のブレーキパッドは、ブレーキディスクとの摩擦が少なく本来の制動性能を発揮できません。慣らし運転を行い、ブレーキング時にブレーキパッドがディスクをしっかりと食いつくようにする必要があります。慣らし運転には、都市部の道路をおよそ200km走行する必要があります。ブレーキの慣らし期間は、制動距離が長いことを考慮に入れ、ブレーキレバーをより強く握ることを意識してください。

急ブレーキや長時間のブレーキは避けてください。

最初の1000kmの間に必要なメンテナンス作業を確認してください。

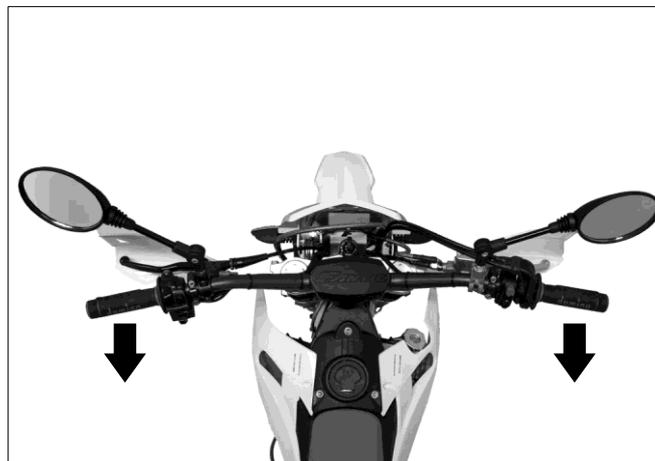
始動

キーを時計回りに回して、ハンドルロックを解除します。車両の正しい位置にまたがります。サイドスタンドがはらわれていることを、必ず確認しましょう。

サイドスタンドが下がっていると、スタートボタンを押してもエンジンがかかりません。



フロントブレーキをかけます。
クラッチレバーを引き、ギアがニュートラルに入っていることを確認します。



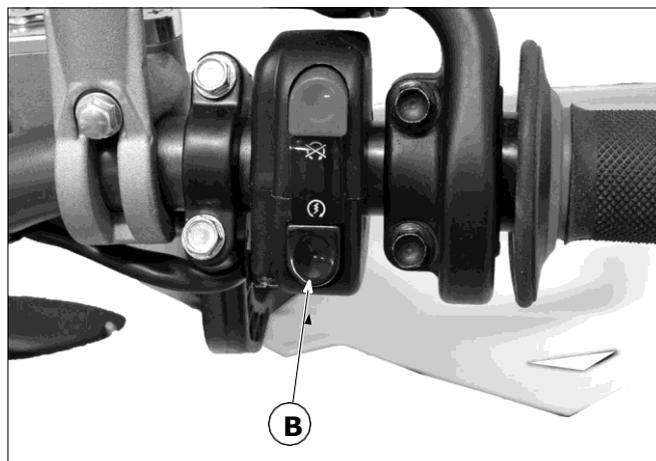
基本操作

キーをONの位置まで回し、メーターの起動動作から通常の標準画面が表示されるまで数秒間待ちます。



ギアをニュートラルにします。クラッチレバーAを引き、次にスタートボタンBを1回押します。

⚠ エンジンを適切に温めるため、最初の数キロメートルは低速で運転することを推奨します。エンジンが温まる前に急激に発進しないでください。

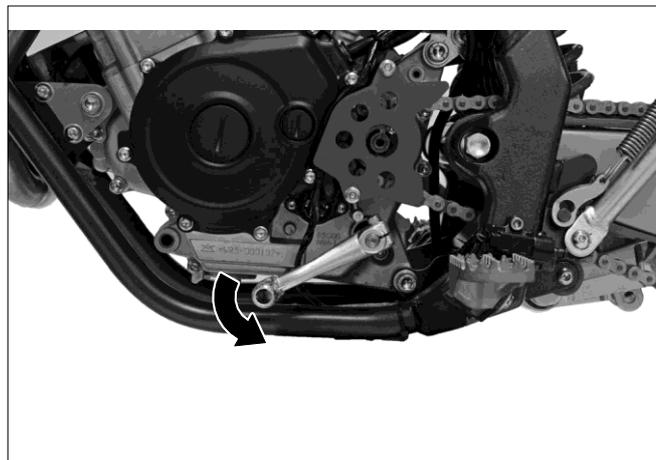


発進

車両を始動させエンジンが適温になったら、クラッチレバーを操作してギアを1速に入れます。ダッシュボードのニュートラル表示灯が消えます。



クラッチをゆっくりと解除し、徐々に加速して車両を前進させます。



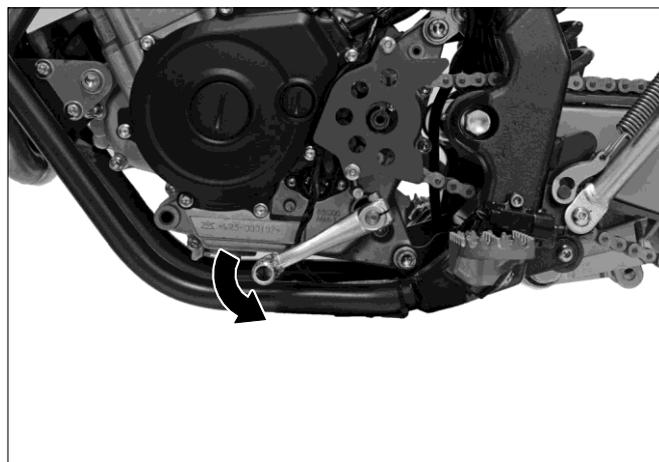
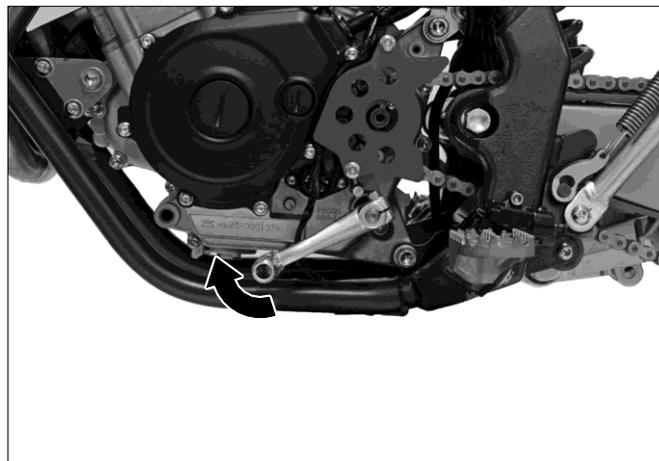
基本操作

ギアチェンジ

ギアチェンジを行うには、クラッチレバーを操作してスロットルコントロールノブを緩め、ギアペダルを上げてシフトアップ、ペダルを下げてシフトダウンします。

① 運転初心者の場合、車両の操作部とその機能についてよく習熟しておくことが重要です。

⚠ ギアは1速ずつシフトしてください。一度に1速より多くシフトアップ、シフトダウンすると、エンジン回転数が上がり、規定の回転数を超える可能性があります。



エンジン停止

 **車両の走行中にエンジンストップボタンを押さないでください。車両が停止し、エンジンが損傷するおそれがあり、車両が制御不能になる可能性があります。**

JP

車両およびエンジンを停止させるには、車両が完全に停止するまでフロントおよび／またはリアブレーキをかけます。シフトレバーをニュートラルにします。

キーをOFF位置に回し忘れると、バッテリーの充電レベルが低下し、バッテリー交換が必要になります。

車両の左側から降車してサイドスタンドを立てたのち、必要に応じてハンドルロックをかけてください（「ハンドル・ロック」の項を参照）。

メンテナンス

はじめに

車両のメンテナンスや点検を行う前には、火傷などの怪我を防ぐために、必ずエンジンを切って、エンジンや排気システムが完全に冷えてから行ってください。
車両のパーツは危険なものもあり、時には毒性の強いものもありますので、作業の際には十分に注意しながら行ってください。

以下の基準を満たすようにしてください:

- 十分に換気のできる、空気の入替えの容易な場所で作業を行ってください。
- 車両の作業に関係のないものや、埃、汚れや煩雑な場所で作業を行わないでください。
- 工具や備品は、必ずメンテナンス作業を行うのに適したものを使用してください。
- メンテナンス作業を行うときは、適切な服装（作業用オーバーオール等）、作業用手袋やラテックスの手袋、保護ゴーグル（またはマスク）を装着して行ってください。
- メンテナンスを行う際は、できるだけ純正部品（液体含む）を使用するようにしてください（ブレーキパッド、ギアオイル、ブレーキ液、クーラントなど）。

言うまでもないことですが、組み立てるときは分解するときと逆の手順をよく守って正しく行ってください。日常の点検はそれほど難しくもなく、皆さん大抵できる作業ではありますが、中には専用の道具を使用して行う作業もあります。もし専用の工具がない場合は、間違いを防ぐためにも無理に作業を行わないでください。

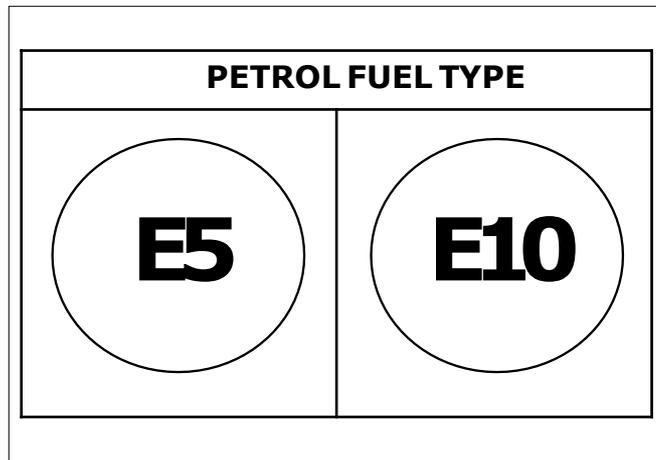
そのような場合は、必要に応じて **FANTIC MOTOR 正規販売店にて行ってください。**
日常点検をご自身で行いたくないという場合も、是非 **FANTIC MOTOR 正規販売店にお任せください。**

途中からメンテナンス作業を販売店に任せる場合は、 unnecessary 点検作業を省くことができるように、ユーザーご自身でそれまでに行ったメンテナンス内容を販売店にお伝えください。

燃料

⚠ 使用されているガソリンは非常に可燃性
 が高、状況によっは爆発・炎上し
 がす。給油やメンテナンスの場
 気の状態で行き届いた場所
 状態が溜まると考えられ
 ス喫煙しないでください。裸火、火花
 他の火気や爆発源との接触を避けて
 さい。

⚠ 周囲にまき散らしたり、子供を近づけな
 いでください。



JP

メンテナンス

定期メンテナンス表

全てのメンテナンススケジュールの作業は、サービスに含まれており、作業内容ごとに定められた保証期間が継続する限り行なう義務があります。

販売店の作業

販売者は、ユーザー自身で行った不適切なメンテナンスや、犯罪や違法行為により受けた損傷や人身の傷害については一切の責任を負うことはいたしません。

ポイント

- ① 汚れはどうか、調整具合は良いか、潤滑は十分か、必要に応じて点検しましょう。
 - ② 汚れ
 - ③ 交換
 - ④ 調整
- ① 雨の多い、埃っぽい地域、悪路走行が多い場合は、より頻りにメンテナンスを行ってください。

項目	1000 km 走行後	3000 km 毎 または12ヶ月毎	6000 km 毎 または12ヶ月毎
スパークプラグ	3000km毎 ①		12000km毎 ③
クラッチの遊び	④	④	-
ライトシステム	①	①	-
クーラント液	2000 km 毎 ①		
ボルトとナットの締結	①	①	-
エンジンアイドリングスピード	④	④	-
ホイール/タイヤ空気圧	毎月 ①		
ドライブチェーンの張り潤滑	500 km 毎 ①		
フロント/リアブレーキパッドの摩耗	2000 km 毎 ①		

⚠ 走行距離が1,000kmに達していなくても、一年が経過したら必ず初回点検をうけてください。

⚠ 定められた走行距離に達していなくても、2年目点検を必ず受けてください。

① 車両に適用されている保証をもれなく受けるためにも、定められた一年点検、二年目点検は必ず受けてください（受けていない場合、保証が適用されなくなる可能性があります）。

販売店の作業

全てのメンテナンススケジュールの作業は、サービスに含まれており、作業内容ごとに定められた保証期間が継続する限り行なう義務があります。

販売者は、ユーザー自身で行った不適切なメンテナンスや、犯罪や違法行為により受けた損傷や人身の傷害については一切の責任を負うことはいたしません。

ポイント

- ① 汚れはどうか、調整具合は良いか、潤滑は十分か、必要に応じて点検しましょう。
- ② 汚れ
- ③ 交換
- ④ 調整
- ① 雨の多い、埃っぽい地域、悪路走行が多い場合は、より頻りにメンテナンスを行ってください。

項目	1000km 走行後	3000km毎 または12ヶ月毎	6000km毎 または12ヶ月毎
リアショックアブソーバー	-	-	①
ドライブ/コントロールケーブル	①	-	①
ホイールの振れ	-	-	①
ステアリングヘッドチューブベアリングとハンドルの遊び	①	-	①
ホイールベアリング	-	-	①
ブレーキディスク	①	-	①
エアフィルター	-	-	③
車両全体の稼働	①	-	①
ブレーキシステム	①	-	①
冷却システム	①	-	①
ブレーキ液	2年毎 ③		
バルブの動作	-	-	①
マフラー/排気システム	-	-	-
エンジンオイル/オイルフィルター	③	③	-
フォークオイルとオイルシール	12000 km 毎 ③		
ホイール/タイヤ空気圧	①	-	①
ボルトとナットの締結	①	-	①
最終減速機構(チェーン、スプロケット)	①	①	-

メンテナンス

ポイント

汚れはどうか、調整具合は良いか、潤滑は十分か、必要に応じて点検しましょう。

汚れ

交換

調整

雨の多い、埃っぽい地域、悪路走行が多い場合は、より頻繁にメンテナンスを行ってください。

項目	1000km 走行後	3000 km 毎 または 12 ヶ月毎	6000 km 毎 または 12 ヶ月毎
燃料パイプ	-	①	4 年毎 ③
クラッチの摩耗	-	①	-

エンジンオイル

下記のことにご注意してください！

初回1000 km走行したらエンジンオイルを点検してください。その後のオイル交換は、「潤滑表」の解説に従って行ってください。

ギヤオイルは:

- 吸気すると有害です、もし飲み込んだり皮膚に触れてしまった場合は身体にとって深刻な影響を及ぼす可能性があります。
- 皮膚の炎症を起こします。
- 環境に害を及ぼす可能性があります。

以下を避けてください:

- 皮膚に塗布すること。
- 揮発蒸気を吸い込むこと。
- 摂取すること。
- 野外に廃棄すること。
- 外気に晒すこと。

もし誤って飲み込んでしまっても無理に吐いたりせず、速やかに医療を受診して(状況により救急)、原因(飲み込んだ物質)とどのようにして起こったのかを伝えてください。

皮膚に触れてしまった場合は、その場所を石鹼や水で繰り返しよく洗い流してください。

目や耳に入ってしまったときは、流水でよく洗い流し救急医療を受診して、原因や状況をよく説明して伝えてください。

衣服などに付着してしまったら、石鹼と水でよく洗い流してください。汚れた衣服はすぐに交換し(着替え)、すぐに洗濯することをお勧めします。

- ギヤオイルが誤って床などにこぼれてしまった場合は速やかに汚れたエリアの清掃を行ってください。メンテナンス作業を行う際は、常にラテックスの手袋などを装着して行いましょう。
- ギヤオイルの補充後は、常にフタがしっかり閉まっているか必ず確認しましょう。

メンテナンス

⚠ 子供たちの手の届かない場所に保管してください。

⚠ 使用後のオイルは、各自治体で定められた所定の場所に廃棄してください。

- 使用済みギアオイルは必ず密閉容器に入れ、お近くのガソリンスタンドか廃油回収場所にて廃棄してください。

エンジンオイルレベルの点検

作業を行う際は手袋などを着用して行ってください。

- ⚠ エンジンオイル点検のときは、サイドスタンドを立てて行わないでください。

車両は平らな場所に置いて行ってください。

- ⚠ しっかりとした支えを使って、車両を垂直に設置します。

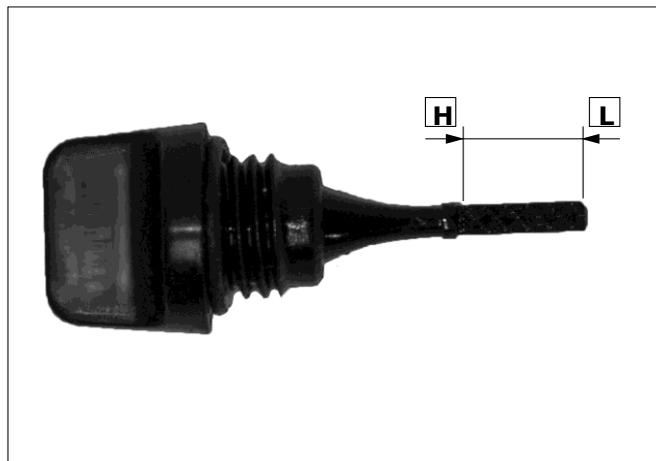
エンジンを始動し、最低でも2分間アイドリングを行ってウォームアップさせてから、エンジンを停止します。2分ほどおいてから、オイルレベルを点検してください。点検窓からオイルレベルを確認します。オイルレベルは点検窓の2本の刻み目の間になればいけません。

H = 上限、 L = 下限

- ⚠ オイルは必ず少しおいて落ち着かせてから点検してください。オイル点検の際は、オイル補充キャップ（ディップスティック）“1”をねじ込まないでください。

- ⚠ エンジンオイルはクラッチの潤滑もします。不適切なオイルや添加剤は、クラッチの滑りを引き起こすので、添加しないでください。MOTULの“CD” “C”またはそれ以上のグレードのオイルを使用し、“ENERGY CONSERVING II” “d” は使用しないでください。

- ⚠ 異物がクランクケース内に混入しないよう注意。



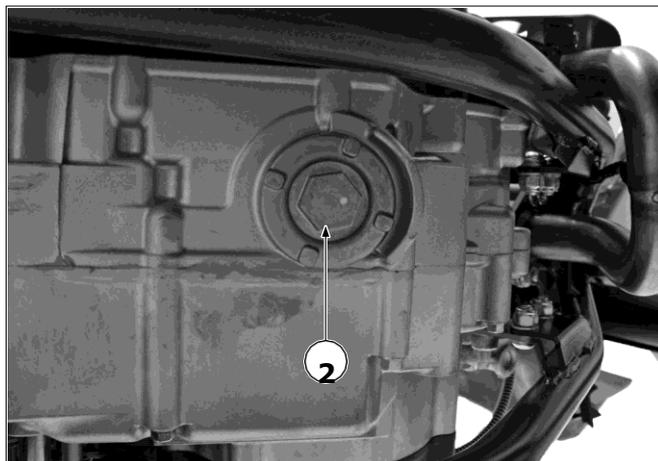
メンテナンス

エンジンオイルの交換

- エンジンを2～3分稼働させて温めたのち停止します。
- コンテナ（受け皿）をオイルドレンボルトの下に設置してください。
- オイル交換キャップ（ディップスティック）“1”を取り外し、オイルキャップ“2”、O-リング、スプリングとオイルフィルターを外します。
- クランクケースからオイルを完全に抜き取ります。

フィルターの交換が必要なときは、下記の手順に従ってください:

- フィルターカバーとエレメントを取り外します。
- フィルターを点検し、汚れがあれば清掃または必要に応じて新しいものと交換します。
- スプリング、O-リングとオイルフィルターエレメント、フィルターカバーを取り付けます。
- 適正量の推奨オイルをクランクケースに補充してください。



① エンジンオイル量

総容量: 1,15L (1,22 US qt) (1,01 Imp. qt)

フィルター交換なし: 0,95L (1,00 US qt) (0,84 Imp. qt)

フィルター交換あり: 1,00L (1,06 US qt) (0,88 Imp. qt).

- オイル交換パイプキャップを再挿入します。
- エンジンを2～3分稼働させて温めてから停止します。
- オイルの漏れがないか点検します。“オイルレベル点検”参照してオイルレベルを確認してください。
- オイルプレッシャー（油圧）も確認してください。

タイヤ空気圧

仕様

この車両のタイヤの仕様は、「仕様諸元」のブランド、タイプ、サイズを参照してください。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧については「仕様諸元」を参照してください。

空気圧を適正に保つことは、以下の項目において車両の状態を向上させることにつながります：

- 運転性能の向上
- 走行性能の向上
- 溝の摩耗を最小限に抑えて長持ちさせる
- グリップ力の向上

タイヤ空気圧不足の場合：

- 異常な摩耗
- 走行性能とグリップ力の低下
- 燃費の低下
- パンクしやすくなる (摩擦熱の上昇により)

タイヤ空気圧過多の場合：

- 異常な摩耗
- 走行性能とグリップ力の低下
- 運転性能と快適性を損ねる

点検

メンテナンス周期については「定期メンテナンス表」の下記の項目を参照してください：

- タイヤ
- タイヤ空気圧
- ホイール/タイヤ

長距離走行の前には、「仕様諸元」にて記載のように毎回タイヤの摩耗と空気圧の点検（常温下で）してください。

メンテナンス

- ① 常温状態のタイヤとは、車両が2 km以下の距離を走行したあと、3時間以上おいた状態の温度のことをいう。もし、2 km以上（長い距離）走行したのちにすぐに空気圧を測らなければいけない場合は、計測器の値を通常より30-40 kPa (0.3- 0.4 bar) 高い値で測定してください。

タイヤが常温ではない状態で規定値に合わせるために空気圧を下げると、不適切な空気圧となりますのでご注意ください。

- ① 計測器の違いによって測定値が異なり、正しい空気圧が測れないことを防ぐために、可能であればできるだけいつも同じゲージで測定することをお勧めします。空気圧の低下を発見したときは、空気漏れなどがいないかよく点検してください。

毎回の空気圧点検の際には、以下を確認してください：

- 損傷や摩耗、溝に異物が挟まったりしていないか。

以下のことによく注意して点検してください：

- 溝（トレッド）やタイヤ側面に異常な膨らみがないか点検します。もしあれば、タイヤに損傷を疑ってください。

- 側面のひび、亀裂がないか点検します。もしそれらがあったり、内部のベルトが見えていたら必ず交換を行ってください。

- 過度に溝の減ったタイヤ

- ① 特定のタイプのタイヤには摩耗インジケーターがついているものもあります。販売店にお問合せください、点検方法と一緒にご案内させていただきます。

トレッド深度

溝の深さは最低でも1mm以上なければなりません。また、必ずお住いの国や地域の施行や法律に従ってメンテナンスを行うようにしてください。

⚠️ **トレッド範囲内の劣化やパンクが5mm以上の時は、必ずタイヤの交換を行ってください。**

タイヤ交換

タイヤ交換は、指定の推奨タイヤを使用するようにしましょう。推奨タイヤ以外の使用は走行性能や車両の安定性を低下させ、事故の危険性やリスク、重篤な怪我や死亡を招く恐れがあります。

交換や修理、メンテナンスは非常に重要で、経験や技術、適切な工具を必要とします。

心配や不安がある場合は、FANTIC MOTOR正規販売店にてご相談ください。

警告

高速走行は、空気圧バルブが開きやすくなる可能性を秘めています。（タイヤの回転による遠心力が原因）正しく空気圧バルブを締めて、急激な減圧を起こさないように注意しましょう。

バルブキャップは合っているか常に確認しましょう。

新しいタイヤは滑りやすい皮膜で覆われています。最初の数キロは十分に気を付けながら走行してください。

不適切な液体や、ガソリンまたは希釈剤をタイヤに塗布しないでください。

古いタイヤは、溝がまだ残っていても、ゴムの硬化によってグリップ力が低下しています。そのような場合は速やかに交換しましょう。タイヤの交換やフィッティングを行うときは、道具や万力などでヘリにダメージを与えたり傷をつけたりしないように注意してください。

メンテナンス

クラッチ

助言

このような場合はクラッチを調整してください:

- クラッチを切っているのに、車両が動き出そうとする。(クラッチが切れない)
- 走り始めまたは走行中にクラッチをつなぐと、過度にエンジン回転数が下がりリアホイールの動きが阻害される。(クラッチのひっかかりによる滑り=かみ合わない)

クラッチ調整ネジは、ハンドルバーのクラッチ接続部にあります。(1)

調整

この車両には、クラッチケーブルに2ヶ所の調整具が付いています。

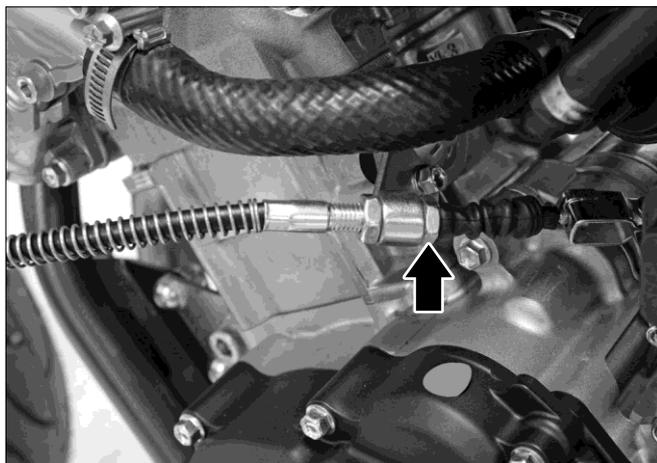
クラッチケーブルは定期的に適切に調整を行いましょう。コントロールレバーの負荷分3-4mmを省いた動き(距離)を考慮して行ってください。計測(長さ)が違う場合は、コントロールレバーの調整ネジ(1)か、関連するエンジンケースの調整スクリューで調整を行ってください。

制御

「始動」を参照してエンジンを始動させます。クラッチレバーを引き、ゆっくりとギヤを一速に入れてつながぎます。クラッチレバーを離し、同時にスロットルを丁寧に開けてください。

以下を確認しましょう:

- クラッチを離して車両を発進させたとき、「助言」にあるような問題等がなくスムーズに走りだすことができるか確認しましょう。



クラッチケーブルの腐食や早期の摩耗を防ぐために、適切な潤滑剤で潤滑を行うようにしましょう。

クラッチケーブルの全長、損傷がないか確認しましょう。ケーブルカバーに亀裂、裂け目や劣化、濡れや摩耗はありませんか？発見した場合は FANTIC MOTOR 正規販売店にて交換してください。

燃料の使用について

内燃機関（エンジン）に使用される燃料は：

- 非常に可燃性が高く、使用状況によっては爆発する恐れがあります。
- 呼気による吸い込みや誤飲、人によっては直接皮膚に触れたりすると体に害を及ぼします。
- 皮膚に炎症を起こす可能性があります。
- 直接地面等に廃棄することは、土壌や水系、植生環境に悪影響を与えます。

出来るだけ避けてください

- 直接肌に触れること。
- 揮発蒸気を吸い込むこと。
- 誤飲。
- 野外や、定められていない場所への廃棄。
- 外気にさらすこと。

⚠ ガソリンをチューブなどでタンクから口で直接吸い上げることはしないでください。ガソリンの揮発蒸気は非常に危険です。

⚠ いかなる場合でも、ガソリンタンクの注ぎ口ガソリンタンクのすぐ近くには顔を近づけないでください。

給油中：

- 喫煙しないでください。
- 火気や火花、他発火あるいは爆発につながる要因すべてに厳重に注意してください。
- エンジンや電装類（ライト等）の電源は切ってください。

メンテナンス

もし誤って飲み込んでしまっても無理に吐いたりせず、速やかに医療を受診して(状況により救急)、原因(飲み込んだ物質)とどのようにして起こったのかを伝えてください。

皮膚に触れてしまった場合は、その場所を石鹼や水で繰り返しよく洗い流してください。

目や耳に入ってしまったときは、流水でよく洗い流し救急医療を受診して、原因や状況をよく説明して伝えてください。

衣服などに付着してしまったら、石鹼と水でよく洗い流してください。汚れた衣服はすぐに着替え、すぐに洗濯することをお勧めします。

高温のエンジンなどに引火して火災等を起こさないように、燃料の吹きこぼれや溢れには厳重に注意してください。もし燃料をこぼしてしまった場合はすぐに拭き取り、エンジンをかける前に完全にこぼれた燃料が乾燥していることを確認してください。

ガソリンは、必ずエンジンを駆動させる目的にのみ使用し、購入後はできるだけ速やかに、直接タンクに給油するようにしてください。高温の環境下ではガソリンは膨張します。燃料タンクには、「フィルレベルマーク」と実際のタンクの上限ぎりぎりの間にエア・ギャップがあり、高温環境下での燃料の膨張によってガソリンが漏れ出すことがないようにしています。給油後は常に燃料キャップがしっかりと閉まっているか確認してください。

⚠ 子供の手の届かない場所で保管または作業を行ってください。

⚠ 廃油は必ず指定された場所に廃棄するようにしてください。

給油

燃料の油種については、テクニカルデータの「燃料」の項を参照してください。
「総燃料タンク容量/予備タンク容量」についてはテクニカルデータを参照してください。

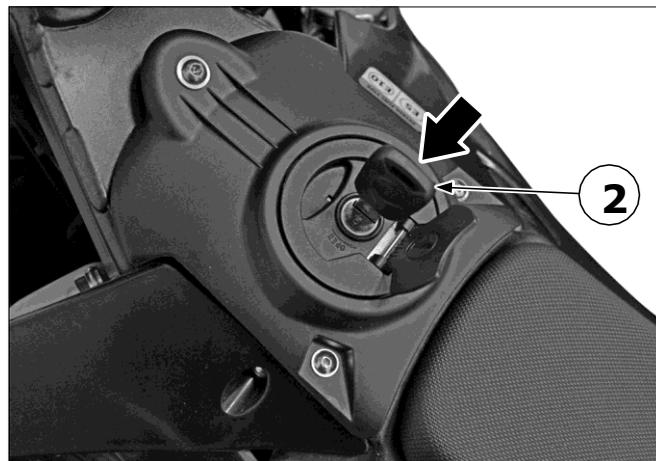
給油にあたり:

添加剤や他の物質を加えないでください。
じょうご等を使用して給油する際は、必ず清潔なものを使用してください。

保護カバーを開けます。(1)

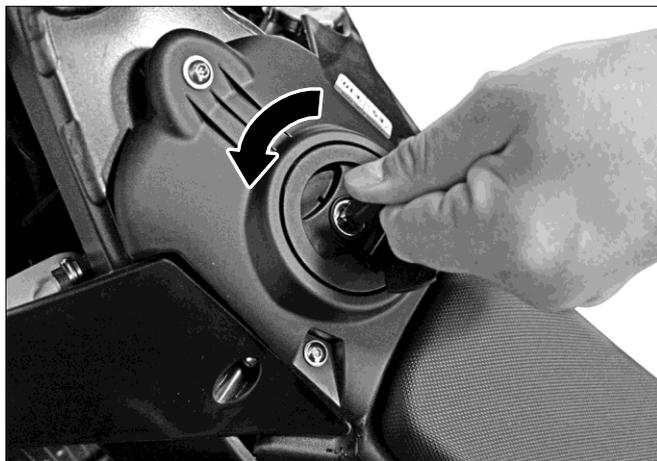


イグニッションキーをロックに差し込みます。(2)



メンテナンス

反時計回りに回します。



燃料タンクキャップを外します。(3)

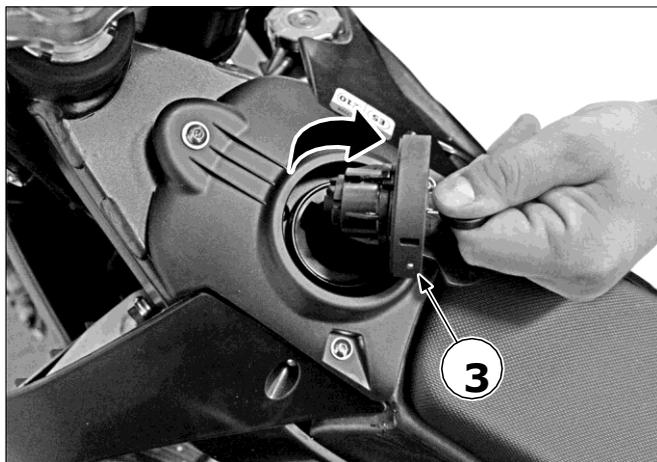
給油レベル

「給油レベル」を上回らないでください。
「給油レベル」の上には 20-25 mm のエア
ギャップがあります。

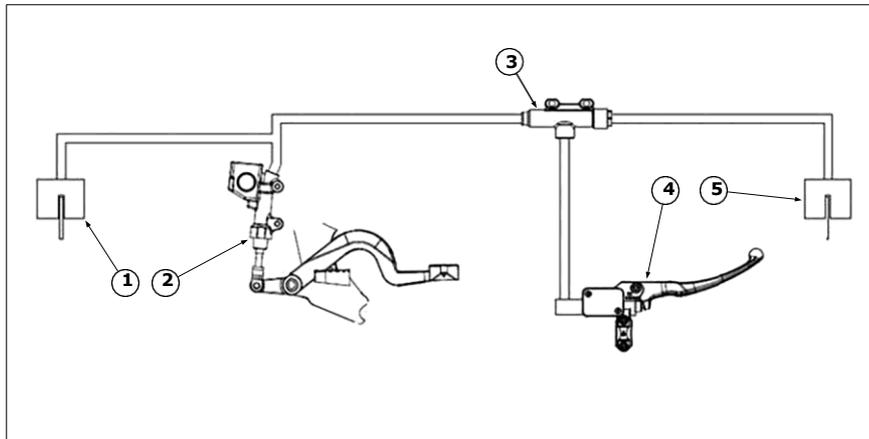
給油完了後、タンクキャップを閉めます。

(1)

キャップが完全に閉まっていることを確認し
てください。



ブレーキ



記号	説明
1	リアブレーキキャリパー
2	リアブレーキポンプ
3	排圧弁
4	フロントブレーキポンプ
5	フロントブレーキキャリパー

CBS (コンバインドブレーキングシステム)

この車両には、コンバインドブレーキシステム (CBS)が前後に装備されています。ブレーキペダルを踏み後輪に作動することによって、CBSが両輪に作動します。リアブレーキへの動作によって後輪のシステムが作動し、同時に自動的に前輪も作動するシステムです。可能であれば、ペダルブレーキと同時にフロントブレーキも使用すると、より効果的なブレーキングにつながります。

① フロントブレーキのみかけた場合は、フロントタイヤだけにしか制動がかからず、リアタイヤにはかかりません。

このブレーキ制動力は、フロントとリアディスクに等しく働き、車両の安定性を保ちながら、制動距離を著しく短縮することができます。

⚠ 車両が持つグリップカの限界を超えて走行しないようにしてください。適正なスピードと、天候や道路のコンディションを見ながら安全に走行することはライダーの義務です。CBSは、ライダーの過失や誤用を補うものではありません。

メンテナンス

ブレーキ液

ブレーキ液は:

- 吸い込むと有害です、もし飲み込んだり皮膚に付着すると深刻な結果を招くこともあります。
- 皮膚に炎症を起こします。
- 土壌や水系、植生に悪影響を及ぼします。

以下のことを避けてください:

- 直接皮膚に触れること。
- 揮発蒸気を吸い込むこと。
- 摂取すること。
- 野外に廃棄すること。
- 外気にさらすこと。

もし誤って飲み込んでしまっても無理に吐いたりせず、速やかに医療を受診して(状況により救急)、原因(飲み込んだ物質)とどのようにして起こったのかを伝えてください。皮膚に触れてしまった場合は、その場所を石鹼や水で繰り返しよく洗い流してください。

目や耳に入ってしまったときは、流水でよく洗い流し救急医療を受診して、原因や状況をよく説明して伝えてください。

衣服などに付着してしまったら、石鹼と水でよく洗い流してください。汚れた衣服はすぐに交換し(着替え)、すぐに洗濯することをお勧めします。

高温のエンジンなどに引火して火災等を起こさないように、燃料の吹きこぼれや溢れには厳重に注意してください。もし燃料をこぼしてしまった場合はすぐに拭き取り、エンジンをかける前に完全に乾燥(こぼれた燃料が)していることを確認してください。

ガソリンは、必ずエンジンを駆動させる目的にのみ使用し、購入後はできるだけ速やかに、直接タンクに給油するようにしてください。高温の環境下ではガソリンは膨張します。燃料タンクには、「フィルレベルマーク」と実際のタンクの上限ぎりぎりの間にエア・ギャップがあり、高温環境下での燃料の膨張によってガソリンが漏れ出すことがないようになっています。給油後は常に燃料キャップがしっかりと閉まっているか確認してください。

 **子供の手の届かない場所で保管または作業を行ってください。**

 **廃油は必ず指定された場所に廃棄するようにしてください。**

使用済みブレーキ液は、密閉された容器に入れお近くのサービスステーションか、指定廃棄場所にて正しく廃棄処分してください。

ディスクブレーキ

ブレーキは車両を安全に運転するために非常に大切な役割を持っています。常に完璧な状態で効率よく働くようにしておきましょう。走行前には必ず摩耗の点検を行いましょう。

ディスクやパッドに水分の付着があるとブレーキの利きが低下します。洗車後などは乾燥した場所に車両を置くことをお勧めします。もし濡れた路面を走行するときは、注意をはらいながら連続してブレーキをかけてください。

融雪剤の塩分や氷（凍結路）もまたブレーキシステムのグリースやオイル、ブレーキ液に影響して効果を低減させます。このような場合はパッドの交換をしてください。

パッド交換をした後は、パッドが馴染むまで最初の200kmは必ず注意して走行してください。この期間は、早めブレーキを心がけ、急ブレーキや、焼き付きを引き起こすブレーキの引きずりを避けるようにしてください。ブレーキシステムからブレーキ液の漏れが見つかったら、車両を使用しないでください。

この車両の前後輪は、分離油圧回路式ディスクブレーキが装着されています。

長期間経つと油圧システムの変調により、ブレーキレバーの遊びや弾性に影響が出てきます。

ご自身での調整が難しい場合や、車両の安全性に疑問が生じたら、FANTIC MOTOR 正規販売店にお尋ねください。ブレーキシステムのパイプがねじれていないか、劣化やひび、切れ目や裂け目はないか、についても確認してください。

水や塵・埃が油圧システムに入り込まないように充分注意してください。パッドが摩耗したら液レベルも合わせて必ず確認する必要があります。

メンテナンス

フロントブレーキ

ブレーキ液ラインが“MIN” マークより上になっているか確認しましょう。パッドやディスクの摩耗も点検して、交換が必要でなければ液の補充を行います。

フロントブレーキ液補充

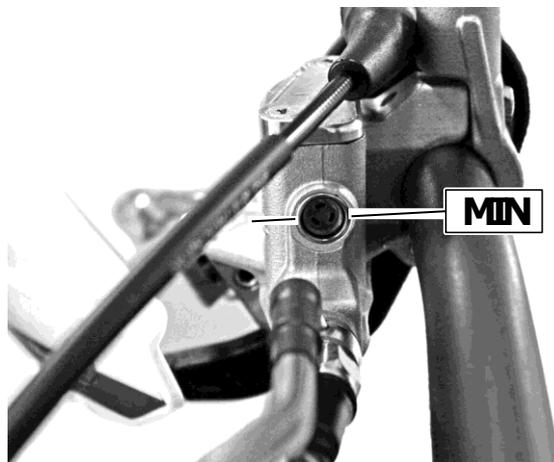
フィリップスのスクリュードライバーで、タンクカバーを固定している二つのネジを緩めます。後ろの方向からガスケットを外し、気を付けながらそれらを清潔な場所に置きます。「潤滑」の項を参照して適切なブレーキ液を補充し、タンク内の“MAX”レベルより超えないように気をつけます。

パッドやディスクが摩耗しているときは、その後の部品交換により液が溢れてしまう恐れがあるので、“MAX”レベルまでの補充は行わないでください。

部品の交換を行ってから、“MAX”レベルまで液を補充するようにしましょう。

ガスケットを取り付けカバーを被せてから差し込み、二つのネジでしっかりと固定します。柔らかい布などで汚れを丁寧に拭き取ってから作業を終えます。

ブレーキの利きや液漏れがないか点検します。故障や不具合が見つかった場合は、FANTIC MOTOR 正規販売店にお尋ねください。



リアブレーキ

リアディスクブレーキのブレーキ液タンクは車両の右横にあります。定期的に液レベルを点検することが好ましく、特に長距離を走行する前には必ず点検しましょう。ブレーキパッドが摩耗するとブレーキ液レベルが低下するので補充が必要です。適切なブレーキ液を使用しましょう（「潤滑」を参照）。

点検のために：

液レベルを正しく確認するために、車両をまっすぐに立てて点検を行ってください。

液レベルが“MIN” マークよりも上であることを確認してください。

MIN = 下限ライン

MAX = 上限ライン

液レベルが“MIN” マークより下がっていたら、パッドやディスクの摩耗を点検してください。摩耗していなければ、そのまま液の補充を行います。摩耗したパッドを交換する際は、先に液を“MAX” のレベルまで入れないでください。後から取り付けたときに、液が溢れる恐れがあります。

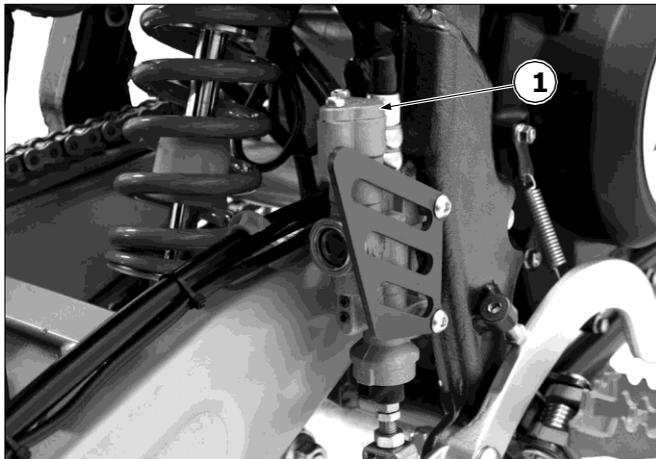
メンテナンス

リアブレーキ液補充

補充の際に液がこぼれないように、タンクは水平になるようにしてから補充しましょう。添加物や他の物質をブレーキ液に加えないでください。じょうご等を使用して補充するときは、清潔なものを使用してください。

- ネジを緩め、フタを外します(1)
- ガasketを外してください。
- MIN (下限) より上、点検窓の上半分あたりまでブレーキ液を補充(「潤滑」を参照)します。
- ガasketを戻し、フタを被せてネジで固定します。

ブレーキの利きと、漏れがないか確認してください。もし故障や不具合がある場合は、FANTIC MOTOR 正規販売店にお問い合わせください。



パッドの摩耗点検

2000 km 走行ごとに一度パッドの摩耗点検を行うのが理想ですが、泥地や砂地を走行したあとはその都度必ず点検を行ってください。パッドには溝があり、必ず溝が見える状態であればなりません。

ディスクブレーキパッドの摩耗度合は、普通の走行条件により左右されます。

パッドの摩耗点検のために:

- サイドスタンドを立てて車両を安定させます。
 - フロント、リア、両方のブレーキ・キャリパーには2つのブレーキ・パッドが装備されています。
- 目視により、ディスクとパッドの間を確認します。
- フロントブレーキキャリパーは「キャリパー・ピボット・ピン」の方に向かって上の方向です。
 - リアブレーキキャリパーはリアの下の方向です。

摩耗とは、摩擦により素材の表面が徐々に削られて起こる現象であり、摩耗が進むことによりノイズやスパーク(火花)がキャリパーから発生し、ブレーキの利きや安全性に大きな影響を及ぼすものです。溝が無くなった(摩擦材深度 1.5mm)、速やかにパッドの交換をしてください。

サスペンション

フロント-ホイール サスペンション

フロントフォークのオイル交換は保証の範囲です。FANTIC MOTOR 正規販売店にて行ってください。「メンテナンス」をよくお読みになり、定期メンテナンス表の「フォークオイルとオイルシール」のメンテナンス周期に従ってください。

制御

以下の点検を実施してください。

- フロントブレーキレバーをにぎり、ハンドルバーを繰り返し強く押し下げてフォークに圧力をかけます。フォークの動きが柔らかで、ロッド部分にオイルの付着痕がないか確認してください。
- フロントホイールの各部のパーツ全て、しっかりと締結されているか確認しましょう。

故障や不具合に際して、必要に応じて専門のスタッフまたは販売店にお尋ねください。

フロントホイールサスペンションの構成:

- インナーチューブとアウターチューブの二本のパイプを、内部に封入されたフォークオイルの油圧により伸縮させます。

調整

- ① FANTIC MOTOR により初期設定では、ライダーの体重約75kg前後の負荷状況がベストコンディションとなるよう設定されています。

リアホイールサスペンション

メンテナンスの周期については、“メンテナンススケジュール表”の章、“リアショックアブソーバー”を参照してください。サスペンションには、ダンパーとリンケージ（リンク装置）ユニットが組み込まれており、ショックアブソーバーの上部とスイングアームにつながる下部（リンケージ）に結合されています。

メンテナンス

ショックアブソーバーのプリロード調整

サスペンションの基本設定は、FANTIC MOTOR によって設定されています。調整が必要な際は、変更することができます。

作業を行うときは、必ずエンジンが完全に冷えてから行うようにしてください。

スプリングを調整してプリロードを調整したいユーザー車両に合わせて設定します。

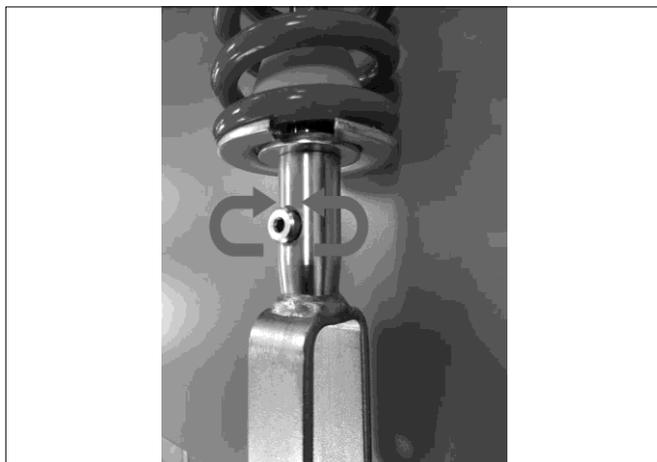
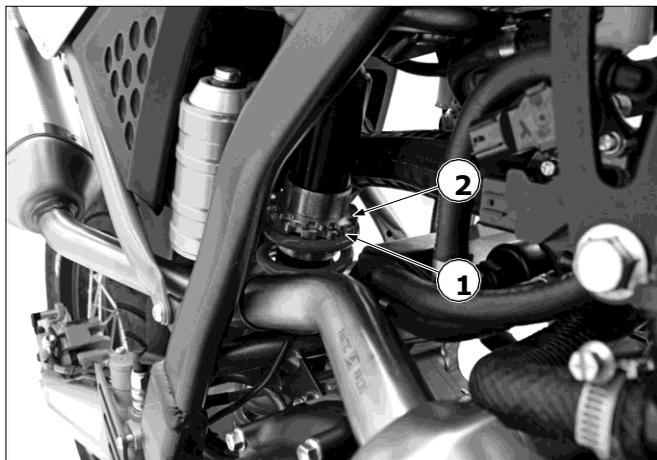
損傷を防ぐために、調整具は限界を超える力を与えたり逆方向に回したりしないでください。

レース等に使用する場合の設定は、イベントの主催者や開催者により、サーキットの状況や路面の状態、または管轄当局の指示に従ってください。

① リングナット(1)調整には、特殊なレンチが必要です。

- リングナットの固定ネジを緩めます。(2)
- フックレンチ、またはアルミニウムポンチを使用して調整リングナット(1)を、好みの位置(体重や路面の状況に応じて)まで回して調整します。
- リングナットの固定ネジをしっかりと締結してください。

ショックアブソーバーには5mmごとに溝があり(5段階)調整ができるようになっています。乗り味を柔らかくしたい場合は半時計回りに、固くする場合は時計回りにネジを回転させて調整してください。



メンテナンス

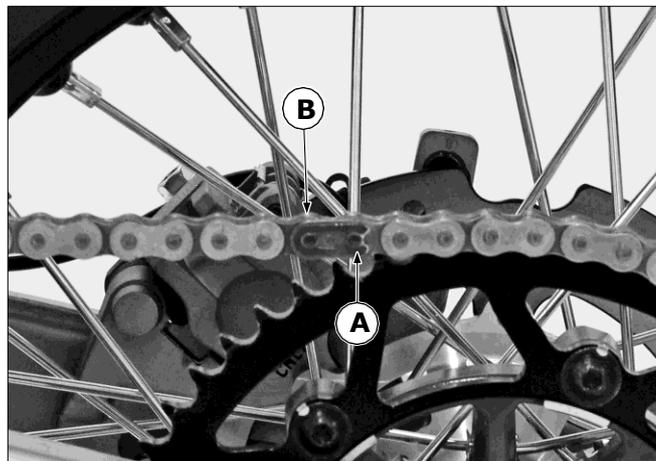
チェーン

本車両はクリップタイプのチェーンを用いている。

チェーン、スプロケット及び歯の点検を行う

以下の各部位をよく点検し、チェーン、前後スプロケット及び歯に異常がないことを確認する。

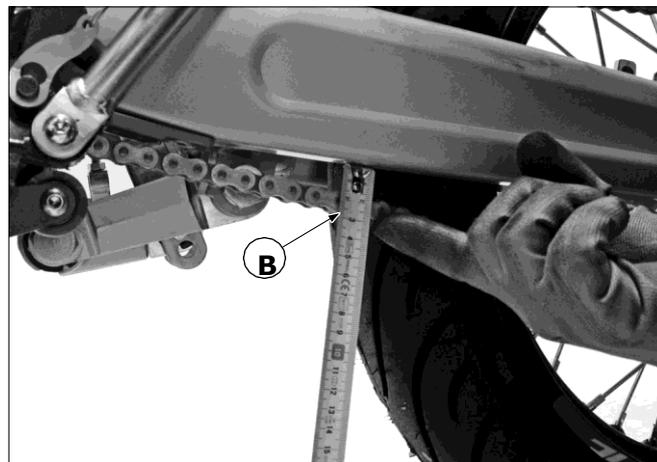
- チェーンのローラー部の摩耗
- チェーンのピンの損耗
- 乾燥、錆び、損傷あるいは焼き付きなどがないこと
- オイルシールリングの損耗
- スプロケットの歯の異常損耗またはダメージ



- ⚠️ 上記いずれかの部品に損耗が認められた場合、チェーン機構全体（前後スプロケット及びチェーン）を交換すること。
- ① チェーンガイド及びチェーンスライダーも点検すること。
- ⚠️ チェーン交換時には、ジョイント部分及びクリップは新品に交換すること。
- ⚠️ チェーンクリップ“**A**”は必ず車両の内側から外側に向けて挿入し、またチェーンのピンがクリップの“**B**”部分で確実にロックされ、チェーンが万が一にも緩むことが無いよう十分注意すること。クリップの閉じられた条項は必ずドライブチェーンの回転方向にあって緩まないようにしておくこと。

チェーンの遊びの点検

- エンジンを停止する
- 車体をサイドスタンドで立てる。
- ギアをニュートラルに入れる。
- 前後スプロケットの中間点を指で押し下げ、また押し上げてその移動量をスイングアームを基準に測定することで、遊びを規定値内に納めます。
- 最もチェーンがたるんだ状態、図示“A”と、チェーンが縮んだ状態、図示“B”との差異が約25mm(0,98 in)になれば正しいチェーンの遊びである。
- 車両を前方に動かし、チェーンがどの位置にあっても同じ程度の遊びに収まっていることを1周にわたって確認する。



メンテナンス

チェーン、スプロケット等の駆動部分の摩耗点検

以下の部分の摩耗を点検すること：

- チェーンのローラー部分の摩耗
- チェーンのピンの緩み
- リンク可動部の乾燥、錆び、痛みなど
- 極端な摩耗
- チェーン・シールの欠け、損耗
- スプロケットや構成する歯の摩耗

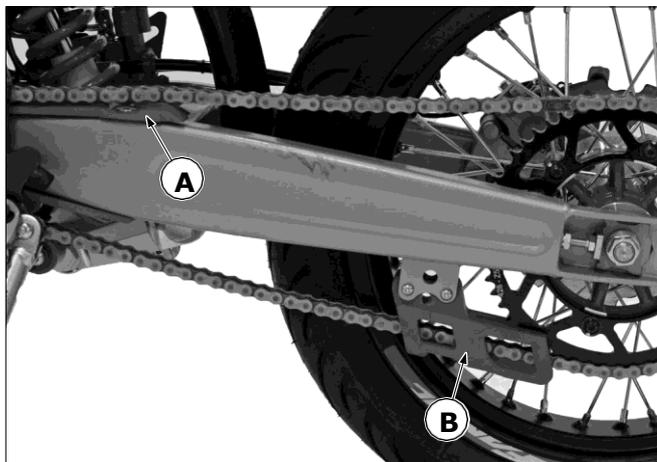
上記いずれかの部品の摩耗が認められた場合は、チェーン、及びスプロケット全て交換すること。また、チェーンガイド(B)ならびにチェーンライダー(A)の点検も行うこと。

注油と洗浄

チェーンは常によく潤滑されるとともに、清潔に保たれていること。特にオフロード走行後の泥や砂などが付着した状態では放置してはならない。チェーンが過度に乾燥したり錆びた場合、またリンクが痛んだりリングに損傷があった場合、チェーンをあたためて潤滑し、傷んだ部位を修復し、再使用に耐えるようにしなくてはなりません。不可能な場合、販売店にご相談ください。

チェーンを高圧水や蒸気、揮発性の高い可燃性溶剤などで洗浄しないでください。

「油脂」テーブルを参照し、適切なチェーン洗浄並びに給油ケミカルを選択してください。



エアフィルター

エアフィルターの洗浄にあたっては、火災や爆発の危険性を避けるためにも、ガソリンや可燃性の溶剤などを用いないこと。メンテナンス スケジュールについては、「定期点検」の「エアフィルター」の項を参照のこと。

エアフィルターの交換

- シートを取り外す。
- 図示されたスクリューを緩め、取り外す。
- ECUトレイ③を図に示されたように取り外す。

① エアフィルターを取り付ける前に、清潔なウェスなどを用いて、ごみ や遺物などがインテークマニフォールド内に侵入しないよう、エアボックス内を洗浄すること。

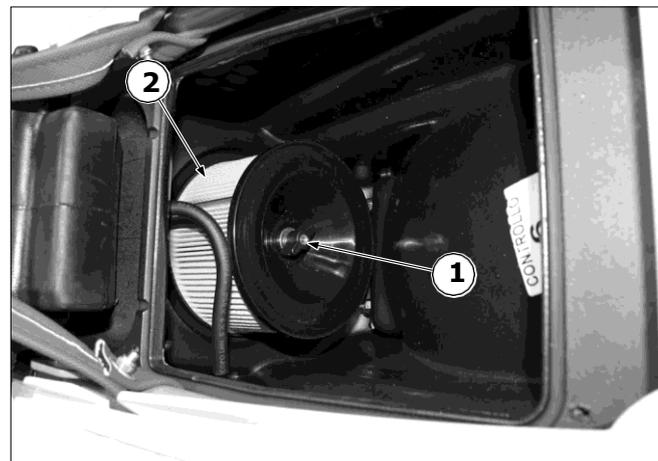
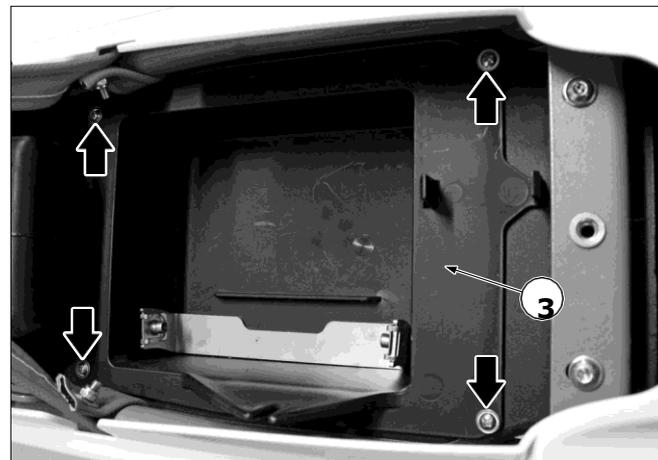
- スクリュー①を緩め、取り外す。
- フィルター②を取り外す。

① この乾式フィルターは清掃は不要。ただし一般道の走行に 際しては3000kmごとの交換、オフロードの走行に際しては 1000kmごとの交換を行うこと。

- フィルター②を同型の新品に交換する。

組付け時には：

- フィルターをフィルターボックス内の定位置に挿入する。
- スクリュー①を締め付ける。



メンテナンス

クーラント（冷却液）

クーラント（冷却液）は:

- 可燃性であり、非視認性の炎を放出する恐れがあります
- 人体に吸入すると有害な物質であり、また皮膚に着くと悪影響が残る恐れがあります
- 肌に対して刺激性があります
- 土や水に対し攻撃性があり、動植物に対し有害です

従い、以下のことを守ってください:

- 肌に接触/付着させること
- 蒸気等を吸入しないこと
- 口に入れないこと
- 自然環境に放出しないこと
- 大気中に廃棄しないこと

クーラント（冷却液）の注入中に火災を起こさないために:

- タバコを吸わないこと
- 近くで火を扱ったり、火花を出したり、着火の恐れがあるものを用いないこと
- エンジンを停止し、灯火類を使用しないこと

万が一吸入した場合、無理に吐き出さず、直ちに医師に相談し、同時になぜ、どのように吸引することになったかを説明すること。もし1時間以内に医師に相談し診せることが叶わない場合、可能な限り吸入物を吐瀉させること。ただし、常に医学的に観察できるよう注意を払うこと。皮膚に付着した場合、付着箇所を直ちに石鹼及び水で洗い流し、完全に清潔になるまで繰り返すこと。目や耳に入った場合、直ちに十分な量の水ですすぎ流し、医師に可能な限り早く診せ、状況を具体的に説明すること。衣類に付着した場合、付着物を取り除き、十分な量の水と石鹼で洗い流すこと。冷却液で汚れた布は再利用せず、速やかに洗浄した後に捨てること。タンクから冷却液が溢れたり飛び散ったりしないよう注意すること。もし冷却液が熱を持ったエンジンに付着すると、視認できない炎が生じる恐れがある。もし冷却液が不幸にして飛散した場合、当該箇所を丁寧に洗浄すること。作業には必ずラテックス製の手袋を装着し、手を保護すること。

① 外気温の上昇は冷却液の容積の増加につながる恐れがある。

冷却液は特定のレベル（位置）まで注入すること。既定のクーラントレベルとタンクの満了までに間には十分な空気があり、万が一クーラントが周辺温度の上昇などで膨張しても溢れるような危険が無いよう設定されています。

- ① 補充にあたっては、補充レベル（位置）を超えないよう注意。補充完了後、必ずキャップを確実に閉めこむこと。
- ⚠ 子供が触ることが無いように注意すること。
- ⚠ 冷却液の廃棄は地域の規定に従って行うこと。

点検間隔については、「定期点検」の「クーラント」の項を参照。

冷却水のレベル（位置）が下限線より下回っている場合、車両を使用しないこと。
使用可能な冷却液の種類については、「油脂類」の「クーラント」の項を参照すること。

指定されたクーラント（冷却液）のみを使用すること。異なるクーラントの使用は、冷却経路に鉱物等の遺物が堆積する要因となり、結果として冷却効率が悪化する恐れがある。

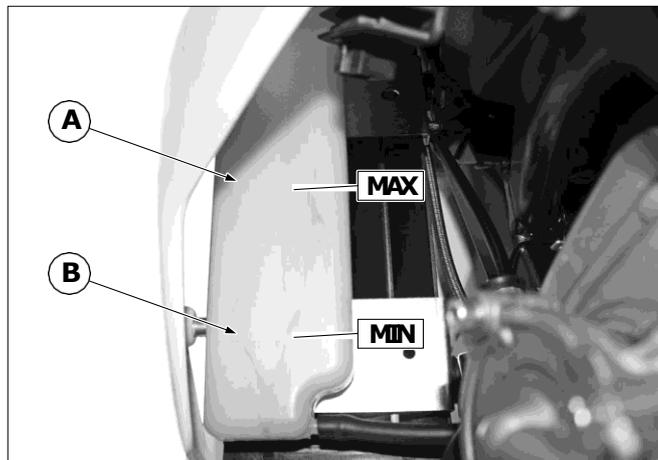
冷却液の交換については、FANTIC MOTOR正規販売店にお任せください。

メンテナンス

- 車両を垂直に保ち、前後輪が接地していること。
- クーラントレベルがタンクに示された線の間に収まっていることを確認すること。

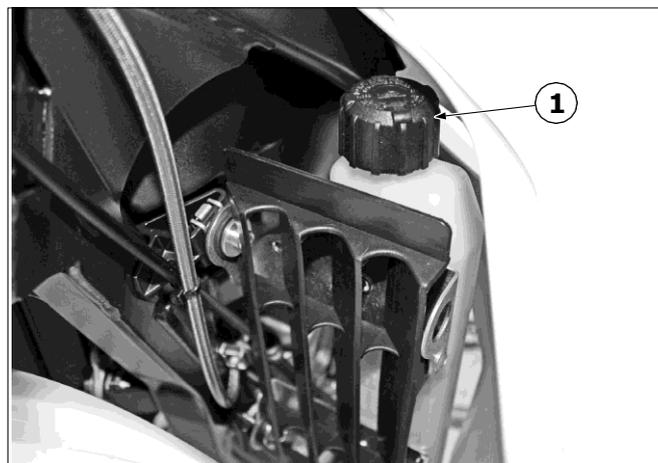
⚠ クーラントレベルはタンクに記された“**A**”と“**B**”の間に位置するように調整すること。

⚠ エンジンへのダメージを避けるためにも、クーラントの量が“**B**”を下回ることが無いよう十分に注意すること。



- エンジンが十分冷えている状態で行う。
- 車体を垂直に保ち、前後輪が接地していること。
- ハンドルバーを右に切る
- フィラーキャップ①を反時計回りに回転して、取り外す。
- リザーバータンク内の水位を確認する。

十分な量のクーラントで満たされていない場合：
- 正しい水位までクーラントを補充する



ラジエーター液の水位

⚠ エンジン停止直後などの温間時は、クーラントも高温化し、かつ高圧でラジエーター内に満たされている。この状態でラジエーターキャップを外すことは、クーラント液が飛び散り皮膚などを侵す恐れがある。ラジエーターキャップ

②は、エンジンが常温に落ち着いたときのみ取り外すこと。

キャップを取り外した時のクーラントの水位がラジエーターの口の部分まで満たされている場合、「満水」状態にあるといえる。

ラジエーター液が満水であることを確認するには以下の手順で行うこと。

- エンジンが常温状態であることを確認。
- 車体を垂直に保ち、前後輪の接地を確認。
- ハンドルバーを左に切る。
- フィラーキャップ②を反時計回りに回し、緩める。
- ラジエーター内及び水路の圧力が抜けきるまで、数秒間そのまま待つ。
- フィラーキャップ②をさらに回転させ、完全に取り外す。
- ラジエーター内のクーラントの水位を点検する。
- 必要に応じてクーラントを補水する。

⚠ クーラント補充時には、満水状態を超えることが無いよう十分に注意。満水状態以上に補充を行うと、エンジン始動後クーラントが漏れたり、他の部位に影響を及ぼす恐れがある。

⚠ もしラジエーター液が大きく減っていた場合、ラジエーター本体やパイプなどの水路からの液漏れを点検する。修理にはファンティック正規販売店に相談すること。



メンテナンス

スロットルコントロール

メンテナンス間隔については、「定期点検チャート」の「スロットル・コントロール」を参照すること。

点検

スロットル（アクセル）の遊び（A）は、ハンドグリップ上で2-3mmに調整すること。

調整

- 車両をサイドスタンドで保持し、スロットルボディアジャスターを調整します。
- スロットルワイヤー保護スリーブ①を取り外します。
- ロックナット②を緩めます。
- アジャストナット③を回転させ、スロットルの遊びを調整します。

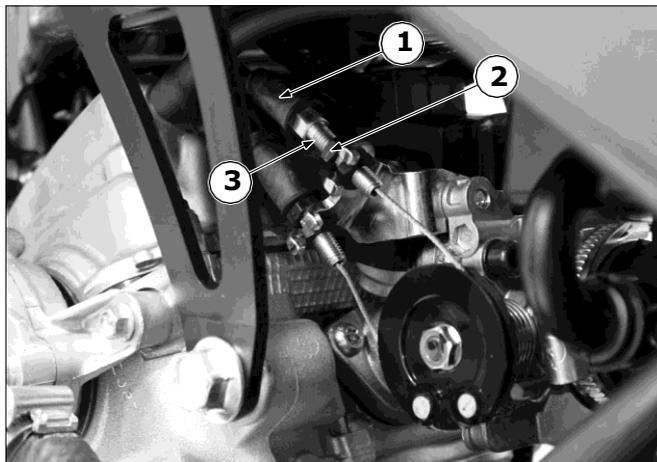
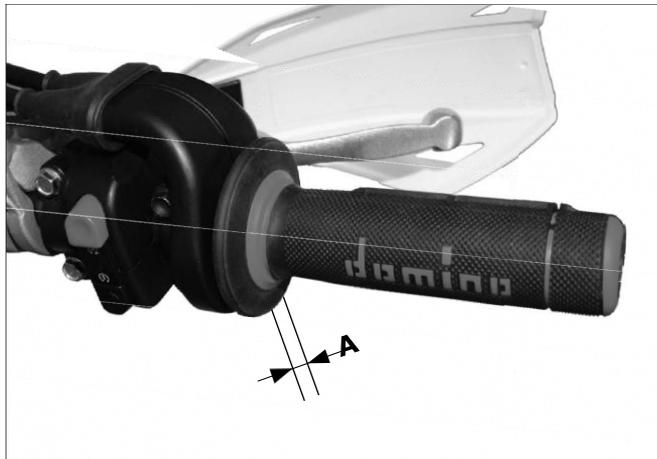
調整終了後:

- アジャストナット③を固定できるまで手で締めこみ、ロックナット②を本締めする。
- スロットルグリップ側の遊びを確認する。

結果が正しく調整されていたら:

- 保護スリーブ①を元に戻す。

遊びの調整が完了したら、必ずエンジンを始動し、アイドリング回転数がハンドルを左右に切っても変化しないこと、並びにスロットルから手を放せば自然に戻ることを確認すること。



スパークプラグ

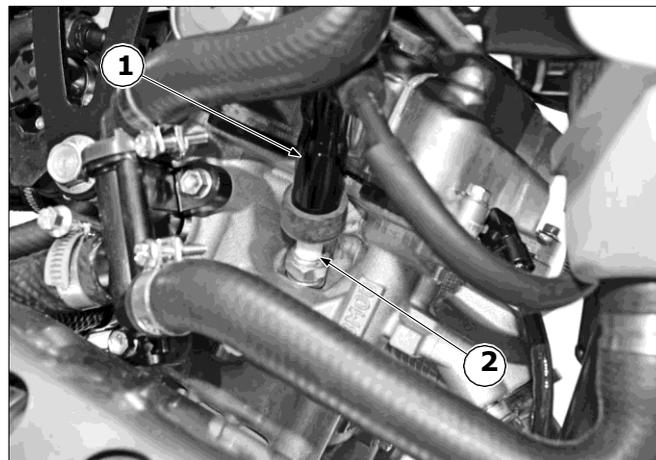
スパークプラグはエンジンを好調に保つためには非常に重要な部品です。十分に注意して取り扱ってください。

スパークプラグを取り外す前にエンジンヘッド部分は圧縮空気などで周辺にある汚れ、ほこり、砂、土などを取り除き、異物がシリンダー内に混入しないようにしてください。

スパークプラグの取り外し

この作業はエンジンが冷えている時に行うこと。

- スパークプラグキャップ①を取り除く。
- スパークプラグ②を適切なサイズの工具を用いて緩め、その後取り外します。
- 金属製のブラシなどで洗浄し、プラグギャップを0.5 -0.6 mmの範囲に調整します。



このメンテナンスは概ね1000 kmごとに実施し、6000 kmごとにスパークプラグを交換すること。

- スパークプラグの取り付けは、取り外し同様手で締めこむこと。工具の使用は最後の締め付けのみとする。
- スパークプラグキャップを、確実にスパークプラグに取り付ける。

スパークプラグを交換する際には、そのねじ径と長さを十分に注意すること。正しくないサイズのスパークプラグの装着は、カーボンの無駄な堆積などにつながり、エンジンに損傷を与えかねません。

必ず「仕様諸元」の項にある、正しいスパークプラグを使用してください。規定以外のスパークプラグの使用は、エンジン能力を低め、あるいは損傷を与える恐れがあります。

メンテナンス

バッテリー

メンテナンスフリーバッテリー①がシート下に装着されています。

このバッテリーは、補水や液面の点検は不要です。バッテリーターミナルを清潔に保ち、必要に応じて非酸性の保護グリースを薄く塗布してください。

バッテリーの取り外し

- シートを取り外し、バッテリーのネガティブ（マイナス）ターミナルを先に、続いてポジティブ（プラス）ターミナルを取り外してください。
- バッテリーを取り出します。

バッテリーの組付けには、ターミナル側を上面に（写真参照）挿入し、ポジティブ（プラス）ターミナルを先に、ネガティブ（マイナス）ターミナルを後に装着してください。



保管時

長期間愛車をご使用にならない場合、バッテリーを取り外し、15日ごとに適切なバッテリーチャージャーで補充電を行ってください。バッテリーは乾燥した、5-35度の気温に保たれた、子供の手の届かないような場所に保管してください。

ヘッドライト及びポジション灯

ヘッドライトバルブの交換

ヘッドライトカウルには以下のバルブ（電球）が備えられています。

- ポジション灯
- ヘッドライト（前照灯）

バルブへのアクセス

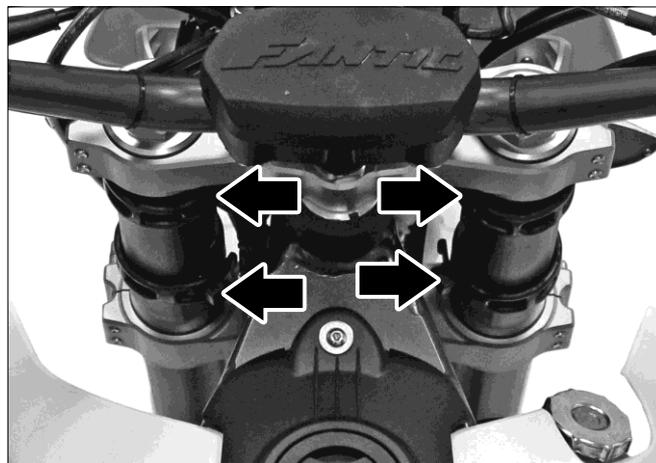
- 車両をスタンドで立てます。
- 4本のヘッドライトカウルブラケットを取り外します。

この時、ヘッドライトカウルはメインハーネスとの間でヘッドライト等の配線が接続されたままです。無理にひっぱたりしないよう注意してください。

ヘッドライトをよりメンテナンスしやすくするため、左右2本のサイドスクリュウを緩めることをお勧めします。

- ヘッドライトカウルセットを完全に車体から取り外します。

- ① プラスティック製部品の取り扱いには十分注意すること。傷つけたり壊したりしないこと。

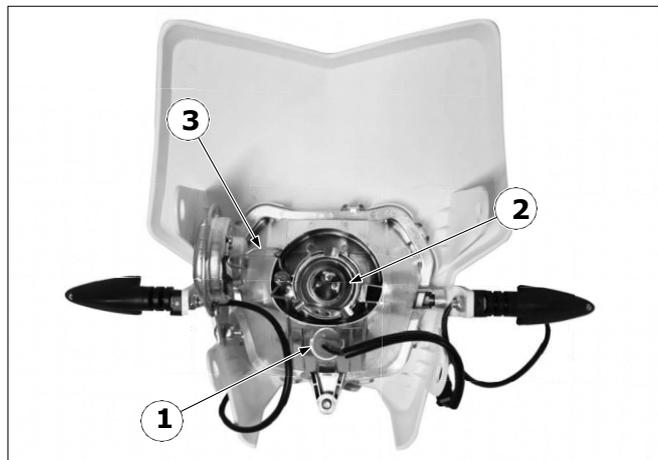


メンテナンス

ポジション灯

ヘッドライトカウルセットの取り外しに際しては、配線を引っ張ることが無いよう十分に注意すること。

- ヘッドライトカウルを掴み、まっすぐに引き出す。
- ポジション灯のバルブ①を取り外し、同形式のバルブに交換する。



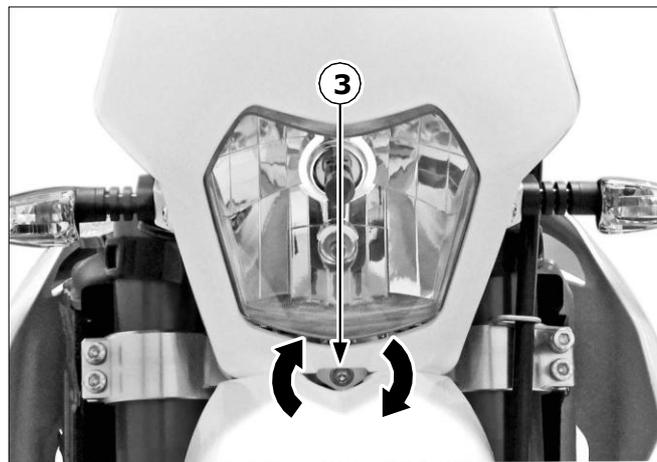
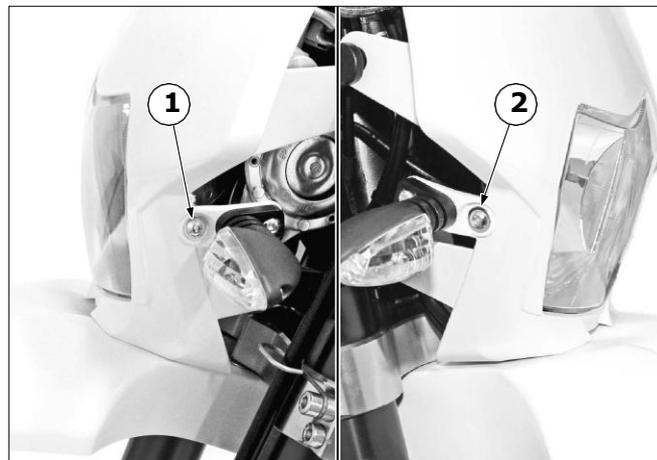
ヘッドライト（前照灯）バルブ

- バルブ取り外しに際しては、配線を傷つけたり引っ張ったりしないよう十分注意してください。
- ランプホルダー中央の黒いゴム製のスリーブを取り外す。
- ランプホルダー・リテイニング・スプリング③を緩め、取り外します。
- ランプホルダー②をヘッドライトケース本体から引き出します。
- 注意深くバルブを押し込み、反時計回りに回します。
- バルブを取り外します。

バルブ交換後は、上記の手順を逆に追って取り付けを行ってください。

ヘッドライト

- 前照灯（ヘッドライト）の光軸を正確に出すためには、水平面上で、垂直の壁面から10m（32.8ft）離れた場所に車両を設置します。
- ロービームを点灯し、車両にまたがった上で、光軸がヘッドライトの高さ面から水平にした場合よりやや下向き（90%程度の高さ）にあることを確認します。
- 光軸の上下方向の調整には、まず車両を走行状態に固定します。
- 図上のスクリュー①と②を緩め、ヘッドライトの調整を可能にします。
- 図上のスクリュー③を調整します。光軸を上方にずらす場合は時計回り、下にずらす場合は反時計回りに回転させます。
- 光軸が正しい位置にあることを再確認してください。
- スクリュー①と②を締め付け、ヘッドライトを確実に保持してください。



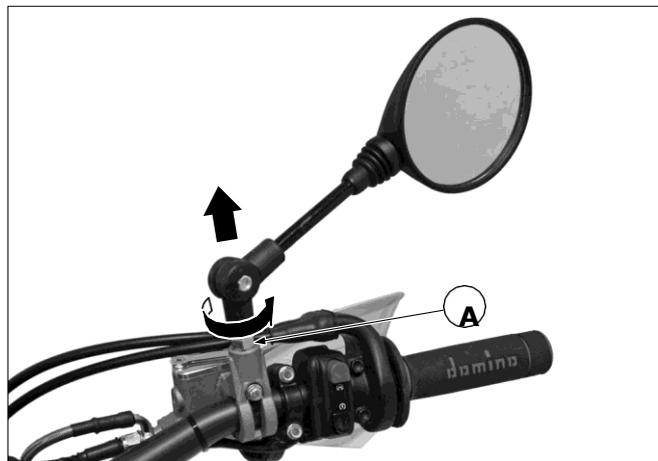
メンテナンス

リアビューミラー

以下の項は左右のリアビューミラーに共通しています。

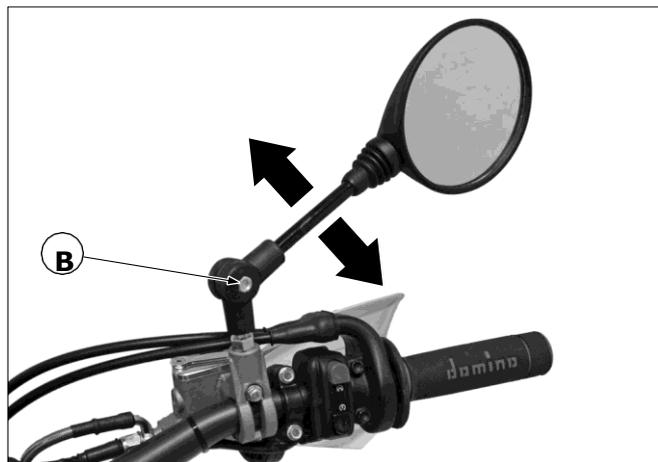
車体をサイドスタンドを用いて水平な路面に確実に立たせます。ロックナットAを 緩め、ミラーを反時計回りに回すことで、取り外せます。

取付時には、ナットを締め付ける前に、ミラーサポートロッドがハンドルバーと平行になるよう確認してください。



リアビューミラーの調整

リアビューミラーの角度の調整は、車体にまたがり、乗車時の姿勢を取ったうえで、ご自身の 体格に合わせて行ってください。このミラーは、前後の角度調整のほか、位置についても調整が可能です。画像Bのスクリューを 緩め、サポートロッドを動かして調整してください。位置を決めた後、Bのスクリューを 占め直すことを忘れずに。



洗車と保管

定期的に車両を洗淨することは、各部を良い状態に保つためにも良い習慣と言えます。もし車両を以下のような状況でご使用の場合、より頻繁に洗車したほうがいいでしょう。

- 海の近くや湿気の多い場所、気温の高い地域など、一般に通常よりも塩分を含む空気が濃厚で湿気の高いところを走行した後
- 凍結防止剤や塩分を巻いている道路を走行した後
- 産業塵芥やタールなどが散乱している、または空気中に含まれている恐れのある工業地帯などを走行した後
- 激しいスポーツライディングやオフロードライディングの後
- 長距離走行後など、虫の死骸が貼りついたり、鳥の落し物の直撃を受けたりした後

また、車両を停める場合、樹木の下などは避けた方が無難です。季節によっては、一部の植物は樹液や果実の落下など、特に外装部品に悪影響を及ぼすものを排出することがあります。

⚠️ 洗車するときには

夏場など、直射日光の元では洗車しないこと。洗剤などが水分ですすぐ前に乾燥し、残留物が塗装部品などに悪影響を及ぼす恐れがあります。外気温が40度を超えるような場合、車体やプラスチック部品を液剤を用いて洗淨しないこと。水分が浸透しないよう、洗車前にシートをカバーなどで覆い保護しておく。以下の部品には高圧水や高圧空気を直接吹きかけないこと。

- ホイール・ハブ
- ハンドルバー左右のスイッチボックス
- 各部のベアリング
- ブレーキタンク及びポンプ（マスターシリンダー）
- メーターや表示板、表示機器
- サイレンサー出口
- ステアリング・ロック機構
- ラジエーターフィン
- 燃料油キャップ、あるいはほかのキャップやプラグなど
- 灯火類
- 電装部品
- デカール

メンテナンス

アルコールやガソリン、溶剤等を、プラスチック部品やゴム部品、サドル（シート）等の洗浄に使用しないこと。

① エンジン外側の洗浄に限り、「油脂類」の項目に従い、脱脂洗剤やブラシ、布等を用いることができます。

高圧洗浄は車両の各部にダメージを与える恐れがあります。

圧力をかけない水道水などで車体全体、特に汚れた部分をよくすすぎましょう。柔らかかなスポンジなどを外装部品には用いて、車両全体をふき取ります。

洗車後のすすぎも圧力をかけない水道水などを用いてください。最後に、清潔なセーム皮などふき取り、乾燥させます。

洗車終了後に必ず行うこと

ブレーキディスクやパッドが濡れるため、ブレーキ力（効き）が普段より弱まっている恐れがあります。ディスクやパッドを確実に乾燥させ、その後、十分に注意を払いながらブレーキが確実に作動することを繰り返し確認してから走行しましょう。

細心の注意を払って洗車したのちに、シリコンワックスなどを用いて磨き上げてください。

表面の艶を損なう恐れがあるため、研磨剤の混入したペーストなどは使用しないこと。

保護ワックスなどはブレーキ関連部品、特にブレーキディスクやパッドに使用すると、その効力を損なう恐れがあるため、使用しないでください。同様に、シート表面に使用すると滑りやすくなり、車両の捜査に支障が出る恐れがあるため使用しないでください。

車両の保管

数カ月に渡りご使用にならない場合、以下の対応をお勧めします。

- ワックスや保護材などを使用して、塗装部品の表面を洗浄し、保護しましょう。
- 燃料タンク内のガソリンをすべて排出し、燃料コックを閉じ、キャブレター車の場合はフロートチャンバー内に、FI車の場合は燃料経路にガソリンが残っていないことを確認してください。確実にするためには、燃料コックを閉じたのち、エンジンを始動して、自然にエンジンが止まるのを待つ（すべての燃料を使い切る）ようにしてください。
- スパークプラグを取り外し、2サイクルエンジンオイルを小さじ一杯ほどシリンダー内に入れましょう。スパークプラグを戻し、キックスターターでクランクを回すことで、シリンダー内にオイルを拡散し、長期間の保管に備えます。
- タイヤの空気圧は定期的に点検してください。
- チェーンに十分な給油を行っておきましょう。
- マフラーの後端を袋状のものでふさぎ、マフラーの出口から湿気などが侵入しないよう、固く縛っておきましょう。
- 車両を保護するのに十分なサイズの、しかし大きすぎて地面に着くようなことが無いようなカバーをかけましょう。カバーの素材はコットンやウールと いった通気性の高い素材が望ましいです。

保管期間終了後、再始動の前に：

- 「クリーニング」の項を参考にしながら、車体のカバーを外し、車両を洗車します。
- 「燃料」の項を参考にしながら、燃料タンクにガソリンを注ぎます。
- 「予備点検」の項を参考にしながら、始業前点検を行います。

必ず、他者のいない安全な場所で安全な速度で数キロメートルほどの点検走行を行いましょう。

仕様

	XE125	XMF125
全長 (mm)	2110	2046
全幅 (mm)	865	865
全高 (mm)	1420	1170
最低地上高(mm)	340	340
軸距 (mm)	1420	1435
シート高 (mm)	920	880
車両重量 (Kg)	108	112
エンジン形式	4サイクル単気筒	4サイクル単気筒
冷却機構	液冷 (水冷)	液冷 (水冷)
内径 x 行程	52.0x58,6	52.0x58,6
排気量	124,7 cm ³	124,7 cm ³
圧縮比	11,20:1	11,20:1
アイドル回転数	1750 ± 150	1750 ± 150
変速機	6 速	6速
クラッチ	湿式多板スリッパ式	湿式多板スリッパ式
点火装置	エレクトリカル式	エレクトリカル式
燃料供給装置	電子制御式燃料噴射	電子制御式燃料噴射
スパークプラグ	NGK R MR8E-9	NGK R MR8E-9

仕様

	XEF125	XMF125
燃料	無鉛プレミアム (98オクタン以上)	無鉛プレミアム (98オクタン以上)
燃料タンク容量	8,5 L / 0,5 L	8,5 L / 0,5 L
冷却液容量	750 cc(油脂類対応表参照)	750 cc(油脂類対応表参照)
エアフィルター	乾式	乾式
ギアオイル	1000 cc(油脂類対応表参照)	1000 cc(油脂類対応表参照)
一次減速	3,042	3,042
最終減速	チェーン 428, (Z=14/58)	チェーン428, (Z=14/54)
フレーム	クロモリ製ペリメーター式	クロモリ製ペリメーター式
スイングアーム	アルミニウム	アルミニウム
フロントサスペンション	テレスコピックタイプ、トラベル265mm	テレスコピックタイプ、トラベル265mm
リアサスペンション	モノショック、プリロード及びリバウンドストローク調整式110mmトラベル	モノショック、プリロード及びリバウンドストローク調整式110mmトラベル
フロントブレーキ	260mm径油圧式ディスク	320mm径油圧式ディスク

JP

仕様

	XEF125	XMF125
リアブレーキ	220mm径油圧式ディスク	220mm径油圧式ディスク
リム	アルミ合金製スポークホイール F:21x1.6" R:18x1.85"	アルミ合金製スポークホイール F:17x2.5" R:17x3.5"
フロントタイヤサイズ 及び空気圧	90/90x21 舗装路:1.6bar 非舗装路:1.3bar	100/80x17 舗装路:1.6bar 非舗装路:1.3bar
リアタイヤサイズ 及び空気圧	120/90x18 舗装路:1.8bar 非舗装路:1.6bar	130/70x17 舗装路:1.8bar 非舗装路:1.6bar
前照灯	12V-35/35W	12V-35/35W
ポジション灯	12V-4W	12V-4W

JP

おわりに

長くお使いいただくためにも、以下の項目については、規定された点検タイミングにかかわらず日常적으로ご確認ください。

- エンジンオイルレベル
- ブレーキフルードレベル
- 灯火類が確実に動作していること
- クーラント（冷却水）レベル
- タイヤの空気圧（冷間時）並びに状態（外観）

適用部位	推奨油脂	一般商品と規格	注記
エンジンオイル/ ギアオイル	MOTUL 5100 10W-50	SAE 10w30,10w40,15w40, 20W40,20w50 API SG以上/JASO MA	鉛物油は 使用しないこと
ベアリング、ジョイント、リンク、レバー等のグリース		リチウムグリース	
クーラント		エチレングリコールベース 不凍液	水で希釈しないこと
チェーンオイル	MOTUL MC CARE C3 OFF-ROAD	ドライブチェー用 スプレーグリース	
ブレーキフルード	MOTUL DOT5.1	ブレーキフルード DOT4または DOT5.1	
電気接点グリス	Permatex PTX22058	接点潤滑剤	
燃料		無鉛ハイオク (95オクタン以上)	
エンジン組付け用 シール材	Permatex PTX82180	Three bond no.1215 または類似品	シリコン系 耐油ガスケット
フォークオイル	MOTUL FOLK OIL 15W	SAE15Wのフォークオイル	
中強度ネジロック材	Permatex PTX24210	中強度ロック材	
高強度ネジロック材	Permatex PTX26210	高強度ロック材	

潤滑表

適用部位	推奨油脂	一般商品と規格	注記
ねじ部の潤滑		エンジンオイルで代用可	
オイルシールなどのゴム部品の潤滑		リチウムグリース	
バッテリー端子の潤滑		ワセリングリース（白）	
洗車	MOTUL MC CARE E2 MOTO WASH	常温、低圧の水道水で、天然素材の液状洗剤を使用すること。	強力な洗剤や温水での洗浄は避ける
ブレーキシステムの外回りの洗浄	MOTUL PARTS CLEAN SUPER	ブレーキクリーナー	ディスク及びキャリパーなど。パッド本体やプラスチック部品には使用しないこと。